

第三 若シ上告ヲ取上ケ被告人ト對審シタルノ後之ヲ斥ケテ原裁判ヲ破毀セサル時ハ預リ金ヲ没入シ又訴訟入費規則ニ照シテ被告人ノ費用ヲ償ハシム 被告人トハ上告者ノ相手方ヨ云

第十七條 上告ヲ爲ス者ハ先ツ原裁判所ニ届出ツヘシ原裁判所ニ於テハ書類ヲ三日内ニ大審院ニ遞送スヘシ

第十八條 上告ニ付テハ裁判ノ執行ヲ停メス大審院已ニ原裁判ヲ破毀スルニ至レハ即日原裁判所ニ通報シテ大審院ヨリ郵信ヲ發ス 執行ヲ止メ更ニ審判落着ノ日ニ至テ前ノ執行ヲ取消シテ後ノ裁判ヲ執行セシムヘシ

但内國人ヨリ裁判外ノ人民ニ對シ又ハ裁判外ノ人民ヨリ内國人ニ對スル上告ハ原裁判ノ執行ヲ停ムヘシ

第十九條 上告狀ハ原告人自ラ之ヲ捧クルモ又ハ代理人ヲシテ之ヲ捧ケシムルモ本人ノ意ニ任ス

第二十條 大審院ニ於テ判事審聽シ不當ナル上告ナリト決スル時ハ何々ノ理由

ヲ以テ上告ヲ受理セサルノ旨ヲ言渡スヘシ

第二十一條 判事審聽シテ當然ノ上告ナリトシ之ヲ判決スヘキ旨ヲ言渡シタル時ハ其後二日內ニ被告人呼出狀ヲ仕出ス可シ此ノ呼出狀ニハ上告狀ノ副本ヲ添フヘシ

第二十二條 被告人ハ呼出狀ヲ受取リタルヨリ三十日內ニ答辨書ヲ作り自身又ハ代理人ヨリ之ヲ大審院ニ捧クヘシ但被告人ノ住所ヨリ大審院ニ至ルノ距離八里ヨリ遠キキハ八里毎ニ一日ヲ増スヘシ

第二十三條 大審院ニ於テ被告人ノ答辨書ヲ受取リシキハ院長ヨリ判事ノ中ニ於テ一人ノ主任ヲ命シ一件書類ヲ取纏メ遲緩ナク一件始末書ヲ作ラシメ然ル後ニ原被對審ノ日ヲ豫定シ三日以前ニ原被對審ノ呼出狀ヲ原被雙方ニ送達スヘシ

第二十四條 原被對審ノ節ハ判事席ニ臨ミ最初ニ主任判事一件始末ヲ宣讀シ次ニ原告ノ陳述次ニ被告ノ陳述次ニ原被交互ノ論辨ヲ審聽シ而シテ後ニ原告人

上告理アリト決スルキハ何々ノ理由ヲ以テ原裁判所ノ裁判ヲ破毀スルニ付更ニ某裁判所ニ於テ裁判ヲ受シヘキ旨又ハ大審院ニ於テ裁判スヘキ旨ヲ言渡スヘシ

第二十五條 若シ原告人ノ上告理ナシト決スルキハ何々ノ理由ヲ以テ上告ヲ斥クル旨ヲ言渡スヘシ

第四章

刑事上告ノ事

第二十六條 違警罪及死罪ヲ除クノ外一切ノ刑事皆上告スルコトヲ得

第二十七條 刑事ニ付キ上告スルコトヲ得ヘキノ人

第一 刑ノ言渡シヲ受ケタル者

第二 檢事 檢事ナキノ地方ハ警察官之ニ代ルコトヲ得

第二十八條 刑ノ言渡シヲ受ケタル者上告ヲ爲サント欲スル時ハ其言渡ヨリ第三日迄ニ三日間ハ上告願狀ヲ其裁判所ニ捧ケ又第十日迄ニ上告趣意明細書ヲ捧

クヘシ

但裁判所ハ決放ヲ執行スル所ノ地方官ニ其事ヲ達スヘシ

第二十九條 檢事ノ上告セント欲スル者ハ裁判言渡ヨリ二十四時ノ内ニ上告ヲ爲スコト刑ノ言渡シヲ受タル者ニ達シ又第十日迄ニ上告趣意明細書ヲ作り之ヲ司法卿ニ遞送スヘシ

但檢事ハ上告ヲ爲スコト決放ヲ執行スル所ノ地方官ニ通知スヘシ

第三十條 檢事及刑ノ言渡シヲ受タル者上告ノ期ヲ過ル時ハ上告ノ權ヲ失フヘシ

第三十一條 決放ヲ執行スル所ノ地方官ハ刑ノ言渡シヲ受タル者若シハ檢事ヨリ上告スルコトヲ達シタルキハ決行ヲ止メ以テ上告ノ落着ヲ待テ獄舎ニ於テハ其刑ノ言渡シヲ受タル者ヲ別舎ニ勾置スヘシ 別舎ナキ者ハ便宜ニ隨ヒ監護スルヲ要ス

第三十二條 刑ノ言渡シヲ受タル者自ラ上告狀ヲ書記スルコト能ハサル時ハ代理人ヲ獄中ニ延キ 獄中ヨリテ應接所ヲ設ケ 他ノ囚人ト混セサルヲ要ス 上告趣意明細書ヲ代書セシムルコトヲ得其代理人ハ明細書ニ本人ト共ニ姓名ヲ記ス可シ本人自ラ姓名ヲ記スルコト

能ハサルキハ其事ヲ肩書スヘシ

但代理人ヲ獄舎ニ延クキハ之ヲ看守者ニ告ケ看守者ハ之ヲ裁判所ニ届クヘシ

第三十三條 刑ノ言渡ヲ受タル者幼年十五年未ニシテ上告ヲ爲スノ權利アルコト

ヲ知ラサルキハ其親族五等親代リテ爲ニ上告スルコトヲ得

第二十四條 裁判所ニ於テ上告趣意明細書ヲ受取タルキハ其文書類ヲ併セテ三

日内ニ之ヲ大審院ニ遞送スヘシ

第三十五條 大審院ハ上告ヲ審按シ上告不當若クハ理ナシト決スルキハ理由ヲ

付シタル判文ヲ原裁判所ニ發付シ上告人ニ傳達セシメテ後決行セシム上告理

アリト決スルキハ原裁判ヲ破毀シテ更ニ它ノ裁判所ニ移シ若クハ大審院自ラ

之ヲ審判スヘキノ旨ヲ判シ若クハ單ヘニ其擬律ヲ平翻シテ原裁判所ニ發付シ

處分セシム其判文ハ并ニ理由ヲ付スヘシ

第三十六條 檢事上告スル時ハ趣意明細書及其文書類ヲ直ニ司法卿ニ遞送シ司

法卿ハ上告趣意明細書及其文書類ヲ相當ノ檢事ヲシテ之ヲ大審院ニ付セシメ

ナ云

十五年未

滿云

ナ云

代リテ爲ニ上告スルコトヲ得

大審院ニ於テ判文已ニ成ルキハ司法卿ヲ經由シテ原裁判所ニ付シ處行セシム

●第二十号

二月十九日

〔十三年一号〕
ヲ以廢止ス

毒藥劇藥取扱規則ヲ定ム

●第二十一号

二月十九日

鹿兒島縣下暴徒征討ニ關シタル無根ノ傳説等妄ニ新聞紙ニ掲載不相成トス

○第二十二号

二月二十一日

變死ニ係ル屍ヲ警察官吏検査スル時ニ於テ解剖ヲ行ハサレハ其致命ノ原由ヲ確

知シ難キ旨醫師申立ル時ハ檢事檢事派出ナキ地方ハ其地方長官ノ許可ヲ受ケ其部分ヲ解剖檢

査セシムルコトヲ得

右布告候事

●第二十三号

二月二十四日

本年一第二号ヲ以テ民費賦課ノ儀布告候處右ハ會計年度ノ都合モ有之ニ付本年
七月ヨリ施行候儀ト可心得此旨布告候事

○第二十四号

二月二十七日

明治八年^九月第百四十四号ヲ以テ御國內西洋形船舶普通信号等ノ儀及布告置候處
今般右事務内務省へ令管理候條右關係ノ儀ハ總テ同省へ可申出此旨布告候事

○第二十五号

三月二日

懲役人又犯罪條例強盜律偽造寶貨律罪人拒捕律懲役人逃亡條例ヲ改正ス

○第二十六号

三月三日

内國製ノ摺附木當分ノ内無稅輸出差許候條此旨布告候事

但輸出稅賦課ノ節ハ二ヶ月前ニ布告スヘキ事

○第二十七号

三月六日

外國人備入候節ハ左ノ通可相心得此旨布告候事

一各官廳ニ於テ外國人備入候節ハ其國所姓名業務給料住所期限及繼備解備共其
時々外務省へ通知スヘシ

一人民ニ於テ外國人ヲ備入ント欲スル者ハ其管轄廳ヲ經由シテ前項ノ件々外務

省ニ届出ツヘシ

一私備外國人ヲ其業務等ノ都合ニヨリ居留地外へ居住爲致度者ハ地方官添書ヲ
以テ外務省へ伺出其許可ヲ受クヘシ

○第二十八号

三月八日

人民所有ノ船舶ヲ賣買シ又ハ金穀等借用ノ爲メ書入質トナサントスル時ハ明治
八年^九月第百四拾八号布告諸建物書入質及賣買讓渡規則ニ準據シ賣主又ハ書入主
ヨリ其船ノ圖面ト約定証書ニ本船管轄地戸長ノ公証ヲ受クヘシ若シ右ノ手續ヲ
爲サ、ルニ於テハ其約定証文ハ裁判上尋常金穀貸借証書ト見做スヘシ

但從前書入質ト爲シタル分ハ當明治十年六月三十日迄ニ本文ノ手續ヲ以テ更
ニ約定書改正可致尤航海中或ハ不得止事故アリテ右期日マテニ書換難致者ハ
其旨豫メ本船管轄地戸長役所へ届置クヘシ

右布告候事

○第二十九号

三月十日

明治十年

〇二〇二

八年四月第六十六号布告内國難破船及漂流物取扱規則第三十七條ヲ改正ス
第三十号 三月十二日

本年郵便規則中第六十一節ヲ改正ス

第三十一号 三月十三日

八年六月第百号布告ハ今般控訴上告手續改正ニ付自カラ消滅スル義ト心得シム

第三十二号 同日

各社領朱黒印地并除地收額中ヨリ従前配當受來候舊神官ノ輩ハ右配當高ナ別紙
祿制ニ引充候上金額ニ換ヘ五ヶ年分ノ合計配當祿公債証書ヲ以テ一時ニ下賜候
條右公債証書ハ明治八年八月第百三十号布告ノ通可相心得此旨布告候事

但配當米金受來候者ハ確証相添來ル四月三十日限リ其管轄廳ヘ可申出若シ右
期限後ニ至リ如何様ノ事情申出候共採用不相成候條此旨兼テ可相心得事

祿制

配當現米

祿制現米

千石以上	三百石
千石未滿	貳百八拾石
九百石未滿	貳百六拾石
八百石未滿	貳百四拾石
七百石未滿	貳百貳拾石
六百石未滿	貳百石
五百石未滿	百六拾貳石五斗
四百石未滿	百貳拾五石
三百石未滿	八拾七石五斗
貳百石未滿	五拾石
百石未滿	四拾五石貳斗貳升
九拾石迄	

九拾石未滿	四拾石四斗四升
八拾石迄	
八拾石未滿	三拾五石六斗七升
七拾石迄	
七拾石未滿	三拾石八斗九升
六拾石迄	
六拾石未滿	貳拾六石壹斗壹升
五拾石迄	
五拾石未滿	貳拾壹石三斗三升
四拾石迄	
四拾石未滿	拾六石五斗六升
三拾石迄	
三拾石未滿	拾壹石七斗八升
貳拾石迄	
貳拾石未滿	七石
拾石迄	
拾石未滿	五石
五石迄	
五石以下	從前ノ通

○第三十三号 三月二十二日

静岡縣管轄伊豆國附屬七島裁判事務自今東京裁判所へ被屬候條此旨布告候事

○第三十四号 三月二十八日

八年^五月第九十五号布告新舊公債證書發行條例第六條第十二節即チ九年^四月第五十号ヲ以改正ノ廉并八年^八月第三百十号布告第二條^ニ改正ス

○第三十五号 三月二十九日

青森裁判所ヲ弘前ニ移シ弘前裁判所ト稱シ候條此旨布告候事

●第三十六号 四月十四日

本年郵便規則中へ掲載有之外國郵便稅表ヲ改正ス

○第三十七号 四月二十五日

生絲取締規則明治六年^一月第三十二号布告及同年^四月第三百三十五号明治九年^三月第三十六号追加共總テ相廢シ候條向後製造ノ生絲ハ其結紙へ繭真綿出壳山繭等ハ其上色へ某[〔]使[〕]府[〔]縣[〕]管下國所姓名ヲ記シタル該製造人ノ印ヲ可捺此旨布告候事

○第三十八号 四月二十五日

本年一月第六号布告ハ建物賣買讓渡規則第一條ニモ同ク追加スルヲトス
●第三十九号 同日

七月二月第十九号布告蠶種原紙規則第二條中改正ス

○第四十号 四月二十六日

謀殺祖父母父母律第二項中改正ス

●第四十一号 四月二十日

九年^{十二}月^{十二} 第五百五十六号布告ニ付テハ同八年九月^九 第四百四十六号布告ハ廢止トス
●第四十二号 五月三日

春蠶同時ニ飼立ル初度夏蠶種製造ノ者自今最寄蠶種製造組合ヘ附属セシム

○第四十三号 五月十六日

神社并寺院ニ於テ其社寺ノ爲メ金穀ヲ借入ル、トキ若クハ金穀ヲ借入ル、爲メ
社寺附地所^{除稅地ヲ}除クノ外^{建物什器}實物古文書類^{ヲ除クノ外}等ヲ抵當ト爲ストキハ必ス氏子檀家

ト協議シ總代二名以上ノ連署ヲ要スヘシ若シ此連署ナキトキハ總テ該社寺神官
僧侶ノ私債ト看做シ縱令右ノ抵當アルモ其效ナキ者ト爲スヘシ此旨布告候事
●第四十四号 五月十八日

四年六月十二日商人買販品代金滯云々ノ布告并ニ六年七月^七 第二百三十九号布告廢
止ス

●第四十五号 六月十九日

{十二年十一号
ヲ以テ改正ス}

萬國郵便聯合條約ヘ連盟ス

●第四十六号 同日

外國郵便稅表ヲ改正ス

○第四十七号 六月二十九日

郵便切手六錢拾錢拾貳錢拾五錢并郵便封皮貳錢^{長形}改正見本ヲ示ス

●第四十八号 七月四日

{十二年四十六
号ヲ以廢止ス}

西洋形船船長運轉手機關手及ヒ海技卒業ノ免狀ヲ所有スル者其他水火夫三年以

上奉職ノ者ハ自今陸軍徵兵ヲ免除ス但海兵編入ハ成規ノ通トス
○第四拾九号 七月六日

民事刑事ノ上告シテ己ニ裁判ヲ經タル者司法卿其裁判ヲ允當ナラスト思量スル者アル時ハ檢事ヲシテ再審ヲ求メシムルヲ得ヘシ
右布告候事

○第五十号 七月七日

諸證書ノ姓名ハ必ス本人自ラ書シテ實印ヲ押スヘシ若シ自書スルヲ能ハサル者ハ他人ヲシテ代書セシムルヲ得ルト雖モ必ス其實印ヲ押スヘシ其代書セシ者ハ本人姓名ノ傍ニ其代書セシ事由ト己レノ姓名トヲ記シテ實印ヲ押スヘシ
但本文諸證書トハ契約ノ證書(金穀地所建物貸借買賣讓與并預リ證書等凡テ民事上相互ノ契約ニ係ルモノヲ云)ニ限ルモノトス
右布告候事

○第五十一号 七月七日

十年六十四号
ヲ以但書追加

十年七十七号
ヲ以復々許ス

硝石輸出差許候旨明治六年^二第四拾七号ヲ以テ相達候處來ル八月十日ヨリ當分
ノ内輸出禁止候條此旨布告候事

○第五十二号 七月九日

自今外國へ渡航ノ日本形商船ハ大小ノ別ナク國旗ヲ掲揚可致此旨布告候事
但國旗ノ寸法ハ明治三年正月布告商船規則中三種ノ内小形ノ分ヲ可用事

○第五十三号 七月十四日

明治九年^一第三号ヲ以地租徵收期限及布告置候處當明治十年ヨリ耕地ノ内實際ニ就テ田畑ヲ區分シ其他各種ノ地租徵收期限更ニ左ノ通改定候條此旨布告候事
但市街地租ノ儀ハ該年七月翌年一月兩期ニ共五分宛ヲ收納スヘシ
各種地租府縣廳へ納期

第一期 該年七月一日ヨリ 畑方及宅地山林原野牧場
同 八月三十一日限 二分

第二期 該年九月一日ヨリ 同
同 十月三十一日限 五分

明治十年

二〇二六六

十三号十号ヲ
以商ノ字ヲ刪

第三期	該年十一月一日ヨリ	同	三分
同	十二月十五日限	同	同
第四期	該年十二月一日ヨリ	田方	五分
同	翌年一月三十一日限	同	同
第五期	該年二月一日ヨリ	同	三分
同	三月三十一日限	同	同
第六期	翌年四月一日ヨリ	同	二分
同	三月三十日限	同	同

●第五十四号 七月二十四日
本年製造ノ蠶種免許印紙ヲ定ム

○第五十五号 八月七日
外國人ニ關係アル貨物ヲ積載シタル西洋形商船ニシテ船難報告又ハ船難證書ノ
手數ヲ要スル時ハ其船長ヨリ我國内ニ於テハ最寄税關又外國ニ於テハ該地在留
我領事館ヘ申出ヘシ即チ授受手續別紙ノ通被定候條此旨布告候事 (別紙略ス)

○第五十六号 八月十一日
明治八年二月第拾四号布告北海道諸産物出港税則并各港船政所規則別冊ノ通改正

本年九月一日ヨリ施行候條此旨布告候事 (別冊略ス)

●第五十七号 八月十五日
來二十一日内國勸業博覽會開場式被爲行

○第五十八号 八月十六日
祿制改革ニ依リ十年一月以降律例中收祿并ニ功俸賞祿追奪ノ儀ハ總テ廢セラレ
タルモノトス

○第五十九号 八月十八日
郵便切手貳拾錢三拾錢四拾五錢トモ改定見本ヲ示ス

○第六十号 八月二十九日
八年九月第百四十八号布告建物賣買讓渡規則第二條中ヲ刪除ス

○第六十一号 八月三十一日
岐阜縣管轄美濃飛彈兩國裁判事務自今名古屋裁判所ヘ被屬候條此旨布告候事

○第六十二号 九月一日

改正ノ租額ハ年ノ豊凶ニ拘ラス上納可致筭、付人民ニ於テ豫メ凶歳ノ備ヘテ爲スヘキハ勿論タリト雖モ改正後日尙ホ淺キニ依リ萬一非常ノ天災ニ罹リ事實難澁ノ村方ハ特別ノ詮議ヲ以テ別紙規則ノ通り當分割賦延納被差許候條此旨布告候事

凶歳租税延納規則

第一條 凡ソ水旱等非常ノ凶災ニ罹ルモノハ地租改正ノ際確定セシ收穫高ニ比較シテ一村田方平均五歩以上ノ損毛ニ涉ルキハ年限ヲ以テ租税ノ延納ヲ許可スヘシ

第二條 延納ノ許可ヲ得タル村方ニ於テハ壹人別ニ其損毛ノ歩合ヲ詳查シ第二條ニ準據シテ割賦ノ年限ヲ區定シ延納證書ヲ差出スヘシ

第三條 延納年限ハ譬ヘハ五歩損ナレハ其租額ノ五歩ヲ納メ五歩ハ翌年ヨリ五ヶ年賦トス以上總テ之ニ準ス若シ悉皆損毛ナレハ該年ハ皆年延トナシ翌年ヨリ之ヲ十ヶ年ニ割賦ス 其比準ハ別紙略表ノ如シ

第四條 延納年限中ニ於テ再度凶災ニ罹リシモノハ舊割賦ノ金額納濟ノ翌年ヨリ更ニ新規延納ノ年限ヲ起算シ別表朱書ノ例ニ據リテ上納スヘシ

第五條 延納年限内ニ該地或ハ幾部ヲ分割シテ或ハ幾部ヲ賣却スルキハ最前許可シタル年期ニ拘

ハラス其地所ニ係ル延納金額ハ地券書替ノ日ヲ以テ一時ニ上納スヘシ

第六條 該地ヲ買得スル方ニテ其地ニ係ル延納金ヲ引受ケ年期ニ隨ヒ上納スヘキ別段ノ契約ヲ結フモノハ前條ノ例ニ非ラスト雖モ此場合ニ於テハ延納證書ノ書替ヲ乞フヘシ

第七條 延納年限ノ未タ終ラサル耕地ハ生存者ノ家督相續ニ由リ又ハ死亡者遺囑ノ贈遺ニ由テ讓受タル分トモ總テ親族他人ニ拘ハラス其讓受人ニ於テ第六條ノ例ニ準シ證書ノ書替ヲ爲スヘシ

但讓リ渡シノ節第五條ノ例ニ準シ延納金一時上納ヲ爲スモ妨ケナシ

第八條 延納年限内ニ於テ天災ニ罹リ荒地トナリタルキハ延納金ノ殘額ハ棄捐スヘシ

第三條 法律上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ利息ノ高キ定メザルキ裁判所
ヨリ言渡ス所ノ者ニシテ元金ノ多少ニ拘ラス百分ノ六六分トス

第四條 第二條ニ依リ定限利息ノ外總テ人民相互ノ契約ヲ以テ禮金棒利等ノ名
目ヲ用ル者アルハ總テ裁判上無効ノ者トス

第五條 返還期限ヲ違フルキハ負債主ヨリ債主ニ對シ若干ノ償金罰金違約金科
料等ヲ差出スヘキヲ約定スルコトアルハ概シテ損害ノ補償ト看做シ裁判官ニ
於テ該債主ノ事實受ケタル損害ノ補償ニ不當ナリト思量スルキハ之レニ相當
ノ減少ヲ爲スコトヲ得

○第六十七号 九月二十三日

●第六十八号 九月二十五日

九州地方賊徒平定ス

○第六十九号 九月二十九日

皇子御名敬仁ト被命建宮ト稱シ奉ツル
十月四日

○第七十号

明治六年七月第二百七十二号地租改正條例第四章ニ地租改正ノ上ハ田畑ノ稱ヲ廢
シ總テ耕地ト唱フヘキ旨布告候處詮議ノ次第有之ニ付自今田畑ノ稱併用スヘシ
此旨布告候事

○第七十一号 十月六日

○第七十二号 十月十二日

○第七十三号 十月二十六日

自今大坂上等裁判所分轄内へ琉球藩ヲ被加候條此旨布告候事
○第七十四号 十月二十九日

舊旗下上知村々貢租ノ儀從前地頭勝手ヲ以テ先納先々納申付有之向不勘ニ付右

ノ分ハ戊辰年收納高ノ三分一被免其餘ハ村方ニテ辨金上納可致云々同年十月會計官ヨリ相達候趣モ有之候ニ付其後調洩等ノ廉ヲ以テ先納金下渡方願出或ハ舊地頭ノ者へ未納ニ係ル金穀處分方向出候向モ有之候得共荏苒數年ヲ經過シ今日ニ至リ請願候ハ不都合ニ付以來右體ノ願筋ハ勿論類似ノ件ト雖モ一切詮議ニ不
及候條此旨布告候事。

●第七十五号 十一月二日

八年十一月 第一百六十二号布告徵兵令第六章第一條中文字削去ス

○第七十六号 同日

改定律例第十九條第二十條第二十一條并逃亡律例及滯獄罪囚減役例圖内凡華士族破廉恥甚ノ一項共都テ删除シ第十三條第四十七條改正ス

○第七十七号 十一月二十日

硝石輸出ノ儀當分ノ内禁止候旨本年七月第五十一号ヲ以布告候處來ル十二月一日ヨリ輸出差許候條此旨布告候事

○第七十八号 同日

郵便切手八錢同はかき三錢五錢六錢ノ三種發行但郵便はかきハ九年九月第二百二十

十二年二十四号ヲ以はかき三種廢止

○第七十九号 十一月二十九日

租稅未納ノ者ハ從來怠納金ヲ徵シ本人身代限ヲ以テ取立ル等ノ處分モ有之處自今右處分ヲ廢止シ更ニ左ノ通區別相立處分致スヘシ此旨布告候事

第一條 徵收期限 毎期後三十日ヲ過テ尙國稅ヲ上納セサル時ハ之ヲ賦課シタル

財産ヲ公賣シテ徵收スヘシ若シ其財産他人へ賣與讓與シタル時ハ之ヲ買受讓受タル者ヨリ完納セシムヘシ

但書入質入規則ニ從フ 地所質入ハ其ハ財産ニ未納稅アル時其債主ニ於テ辨納スヘシト

申立ル者ハ其意ニ任セ公賣ヲ行ハス

第三條 營業稅ヲ上納セサル時ハ其營業ヲ停止ス其製造品アル者ハ之ヲ公賣シ次ニ其器物ニ及ホスヘシ

十一年三十四
号ヲ以五條六
條追加

但釀造税モ本條ニ據テ處分スヘシ

第三條 府縣稅民費モ此規則ニ準シテ處分スヘシ

但各別ニ財產ヲ指定メテ賦課セサル民費徵收ニ付テハ土地家屋ヲ除キ他ノ
財產ニ付先取特權アリトス

第四條 凡租稅不納ニ付財產ヲ公賣セントスル時ハ地方官ニ於テ處分シ先ツ公

賣ニ關スル入費ヲ引去リ而後國稅府縣稅民費ヲ徵シ剩餘アル時ハ之ヲ本人ニ

還付ス若シ不足アル時國稅府縣稅ハ官ノ損失ニ歸シ民費ハ該區ノ損失ニ歸ス

但該財產ニ付テ區戶長役所ノ帳簿ニ記載セル債主アル時ハ其殘金ヲ順次其

債主ニ給付ス

第五條 營業稅并釀造稅未納ノ者徵收期限ニ至リテ翌日ヨリハ該製造品及器物

ハ官廳ニ於テ差押ヘルヲ得

第六條 財產公賣ノ際買請望人無之節該財產ハ之ヲ官沒スヘシ

附則

此布告ニ矛盾スル布告布達ハ廢止トス

○第八十号 十一月二十二日

地租金ノ内田方ニ限リ當分人民ノ情願ニ任セ半額其府縣ノ地租改正ニ用ヒタル
相場ヲ以テ代米納差許候條此旨布告候事

○第八十一号 十二月五日

八年二月二十六号布告酒類稅則中改正追加ス

○第八十二号 十二月七日

家祿賞典祿ノ儀明治九年八月第八十号ヲ以テ布告及置候通本年ヨリ金祿公債ノ處
分相成候ニ付テハ舊藩主へ下賜賞典祿ノ内ヨリ代數ヲ限リ或ハ終身或ハ年限ヲ
以テ士民へ分與セシ分ハ舊藩主ニ於テ適宜處分可致候條此旨布告候事

○第八十三号 十二月十二日

九年八月第六号布告國立銀行條例第一條第二條追加ス

○第八十四号 十二月十四日

明治十年

〇二百十三

明治十一年郵便規則及罰則別冊ノ通ニ候條此旨布告候事

(別冊略ス)

○第八十五号

十二月十七日

本年十一月布告鳥獸獵規則第九條へ但書同第十八條追加ス

○第八十六号

十二月十八日

内國製木綿メリヤス縞斜股引無稅輸出差許候條此旨布告候事

○第八十七号

十二月二十七日

九州地方ノ賊徒征討以來莫大ノ臨時費本年ノ歲入ヲ以テ支辨難相成ニ付損札交換ノ爲メ備置候紙幣ノ内更ニ二千七百万圓發行候事

一交換ノ爲メ備置候紙幣二千七百万圓發行候ニ付テハ目今流通致居候半圓貳拾錢拾錢ノ紙幣高二千七百万餘圓ハ來明治十一年ヨリ明治二十五年迄十五ケ年間ニ補助ノ銀銅貨ニテ交換致シ右半圓以下ノ紙幣ハ截斷シ其時々可及布告事

一右發行ノ紙幣二千七百万圓ハ十五ケ年間ニ交換スヘシ候ヘ紙幣ヲ以テ金札

公債證書ニ交換致度旨願出候者へハ明治六年第二百一十一号公布ニ準據シ紙幣

ト引換公債證書ヲ下付シ年六分ノ利息ヲ相渡引換候紙幣ハ截斷致シ其時々更

ニ可及布告事

右布告候事

○第八十八号

十二月二十八日

内國勸業博覽會ノ儀明治十年ヲ以テ第一會トシ爾後五ケ年目毎テ第二會トス

ニ被開候條此旨布告候事

但本會開設ノ場所及日限諸規則等ハ三ケ年前ニ布告スヘキ事

○第八十九号

同日

本年十一月布告賣藥規則中第一條第五條第十四條改正ス

○第九十号

同日

銀行紙幣壹圓札ヲ新ニ製造從前ノ分ト取交發行ス

○第一号 一月十一日

静岡縣管下伊豆國八丈島始七島自今東京府管轄被仰付候條此旨布告候事

○第二号 一月十九日

通用貨幣ヲ鑄解シ又ハ其體面ヲ毀傷スル等其他總テ流通ノ用ヲ缺キ候所爲一切不相成候條此旨布告候事

○第三号 二月五日

開拓使管內鑛山借區稅ノ儀詮議ノ次第有之當分其營業月數ニ應シ月割ヲ以テ徵收候條此旨布告候事

○第四号 二月十五日

船車賣藥牛馬賣買等稅金納期左ノ通明治十一年ヨリ施行候條此旨布告候事

但從前布告達中此布告ニ矛盾スル條目ハ總テ廢止ト心得ヘシ

一 商船船身、賣藥、牛馬賣買等ノ稅金前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限其管轄廳へ可相納事

但船税ノ内新規合船六月以前ニ係ル者ハ一年分七月以後ハ半年分解船破船
六月以前ニ係ル者ハ半年分七月以後ハ一年分納税スヘキ事

三月二日

○第五号

九年八月第百六号布告國立銀行條例第十八條ヲ改正シ十年十二月^{十二}第八十三号布告同
條例追加ヲ取消ス

○第六号

三月二十五日

福島縣下濱街道ノ儀從來磐城國楡葉郡四ツ倉驛ヨリ久ノ濱驛ヲ經廣野驛迄海濱
砂漠通行ノ處今般新開相成候八坂通ヲ以テ自今陸前濱街道ト改定候條此旨布告
候事

○第七号

四月三十日

今般全國中公益ノ事業ヲ興シ物産繁殖ノ道ヲ開キ内外ノ商賣ヲ盛ニスルタメ
新ニ壹千貳百五十拾萬圓ノ内國債ヲ起シ其費用ニ供スヘキニ被決定右募債方一切
大藏卿ニ御委任相成候條此旨布告候事

十一年大藏省
甲十三号ヲ以
起業公債證書
發行條例ヲ定

但詳細ノ儀ハ大藏卿ヨリ可及布達候事

○第八号

五月四日

明治七年^十月第百七号布告株式取引條例相廢シ更ニ別冊ノ通相定候條此旨布告候
事 (別冊路ス)

○第九号

五月四日

明治二年四月同三年正月布告海外行印鑑免狀渡方ノ儀及同九年^十月第百二十八号
布告中海外行免狀ノ廢止候條自今外務省本年一月第一号布達海外旅券規則
ニ照準スヘシ此旨布告候事

○第十号

同日

七年^二月第十九号布告蠶種原紙規則八年^三月第四十七号十年^四月第三十九号右規則中
改正布告及八年^二月第三十二号布告蠶種製造組合條例并蠶種製造組合會議局規則
同年^四月第六十五号條例追加十年^五月第四十二号初度夏蠶種製造方布告共廢止ス

○第十一号

五月二十四日

明治十一年

二〇二百十六

銃獵免許ノ者及有害ノ鳥獸威シ銃室内射的場營業免許ノ者等需用ノ彈藥雷管ニ
限リ賣買手續左ノ通相定候條此旨布告候事

銃獵免許ノ者及ヒ有害ノ鳥獸威シ銃室内射的場營業免許ノ者等需用ノ彈藥ヲ買
ハント欲スル時ハ其免狀若クハ免許證ヲ以テ彈藥賣買免許商人ニ示シ以テ其免
許人タルコトヲ證スヘシ

彈藥賣買免許商人ハ右ノ免狀若クハ免許証ヲ認メ正確ナリトスル時ハ左ノ程限
ニ照シ之ヲ賣渡シ其姓名及ヒ數量等ヲ詳記シ月々其管轄廳 東京ハ警 視本署 へ届出ツ

西洋形獵銃用

彈藥 散彈ハト
ロソノ類

貳千發

同上用

雷管

四千粒

火繩銃用
威シ銃用

火藥

壹貫目

室内銃用

雷管

壹萬粒

右一次賣渡シ最多ノ程限トス若シ一次此程限外ノ彈藥雷管ヲ買ハント欲スル時

ハ銃砲取締規則第二則ニ從フヘシ

○第十二号

五月二十七日

貿易銀貨ノ儀ハ從來各開港場貿易便利ノ爲メ鑄造シ各開港場ニ限リ通用候處今
般更ニ一般ニ令通用候條租稅其他公私ノ取引上都テ授受可致此旨布告候事

○第十三号

同日

八年^六月第八号布告貨幣條例中貨幣通用制限ノ第五節ヲ改正シ且該貨鑄造料及
地金輸入定高ヲ減シ貨幣渡日限ヲ縮メ造幣規則第四條但書中并第九條第十二條
第十三條中ヲ改正ス

○第十四号

同日

九年^九月第十七号布告違式註違條例第三條中文字增加ス
○第十五号 六月十日

八年^{十一}月第十七号布告外國勳章佩用免許願手續左ノ通改正候條此旨布告候
事

外國勳章佩用願手續

- 一 內國人ニシテ外國政府ヨリ勳章ヲ受ケ之ヲ佩用セント欲スル者ハ左ノ手續ヲ以テ賞勳局正副總裁へ宛願出其佩用免許狀ヲ受ヘシ
- 一 皇族及勅奏任官ハ外務省ノ副狀ヲ受ケ直ニ賞勳局へ願出ヘシ
- 一 判任官以下ハ奉職廳華族ハ宮内省士族以下ハ地方廳ヲ經テ願出其奉職廳若クハ宮内省地方廳ハ其趣ヲ具シ外務省ノ副狀ヲ併セ賞勳局へ進達スヘシ
- 一 佩用願人ハ前條出願ノ節其外國ヨリ受領シタル勳章勳記ヲ前ノ手續ヲ以テ賞勳局へ差出シ其檢閱ヲ受クヘシ其願書面ニハ勳章ヲ受領シタル事由ヲ詳記スヘシ

○第十六号

七月二日

今般新ニ銀行紙幣五圓札ヲ製造シ從前ノ銀行紙幣ト取交セ各國立銀行へ交付令發行候條公債証書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑念授受可致此旨布告候事

但見本札ハ其管轄廳ヨリ可相達事

○第十七号

七月二十二日

郡區町村編制法左ノ通被定候條此旨布告候事

- 第一條 地方ヲ畫シテ府縣ノ下郡區町村トス
- 第二條 郡町村ノ區域名稱ハ總テ舊ニ依ル
- 第三條 郡ノ區域廣濶ニ過キ施政ニ不便ナル者ハ一郡ヲ畫シテ數郡トナス
東西南北
上中下某郡
ト云カ如シ
- 第四條 三府五港其他人民輻湊ノ地ハ別ニ一區トナシ其廣濶ナル者ハ區分シテ數區トナス
- 第五條 每郡ニ郡長各一員ヲ置キ每區ニ區長各一員ヲ置ク郡ノ狹少ナルモノハ數郡ニ一員ヲ置クヲ得
- 第六條 每町村ニ戶長各一員ヲ置ク又數町村ニ一員ヲ置クヲ得
但區内ノ町村ハ區長ヲ以テ戶長ノ事務ヲ兼ヌルヲ得

十三年十四号
ヲ以第七條
ヲ以第九條迄
ヲ追加ス

第七條 此編制法ヲ施行シ難キ島嶼ハ其制ヲ異ニスルヲ得

第八條 地方ノ便益若クハ人民ノ請願ニ由リ止ムヲ得サル理由アルモノハ郡區町村ノ區域名稱ヲ變更スルコトヲ得

第九條 第三條第四條第七條第八條ノ施行ヲ要スルトキハ府知事縣令ヨリ内務卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

但町村區域名稱ノ變更ハ内務卿ノ認可ヲ受クヘシ

第十八号

七月二十二日

十三年十五号
ヲ以テ改正ス

府縣會規則左ノ通被定候條此旨布告候事

第一章 總則

第一條 府縣會ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算及ヒ其徵收方法ヲ議定ス

第二條 府縣會ハ通常會ト臨時會トノ二類ニ別ツ其定期ニ於テ開ク者ヲ通常會トナシ臨時ニ開ク者ヲ臨時會トナス

第三條 通常會臨時會ヲ論セス會議ノ議案ハ總テ府知事縣令ヨリ之ヲ發ス

第四條 臨時會ハ其特ニ會議ヲ要スル事件ニ限リ其他ノ事件ヲ議スルヲ得ス

第五條 凡ソ地方稅ヲ以テ施行スヘキ事件ハ府縣ノ會議ニ付シ其議決ハ府知事縣令認可ノ上之ヲ施行スヘキ者トス若シ府知事縣令其議決ヲ認可スヘカラス

ト思慮スル時ハ其事由ヲ内務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第六條 府縣會ハ毎年通常會議ノ初メニ於テ地方稅ニ係ル前年度ノ出納決算ノ報告書ヲ受ク

第七條 通常會期中議員ノ内一人又ハ數人其府縣内ノ利害ニ關スル事件ニ付政府ニ建議セントスル者アレハ議長ノ許可ヲ得テ之ヲ會議ニ付シ過半数ノ同意ヲ得タルトキハ其會ノ所見トシ議長ノ名ヲ以テ之ヲ内務卿ニ建議スルヲ得

第八條 府縣會ハ府知事縣令ヨリ其府縣内ニ施行ス可キ事件ニ付會議ノ意見ヲ問フコトアルキハ之ヲ議ス

第九條 府縣會ハ議事ノ細則ヲ議定シ府知事縣令ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルヲ得

第二章 撰舉

第十條 府縣會ノ議員ハ郡區ノ大小ニ依リ每郡區ニ五人以下ヲ撰フ

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ公選シ府知事縣令之ヲ認可シ内務卿ニ報告ス可シ

議長副議長及ヒ議員ハ俸給ナシ但會期中滞在日當及ヒ往復旅費ヲ給ス其額ハ會議ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 書記ハ議長之ヲ撰ヒ庶務ヲ整理セシム其俸給ハ會費ノ中ヨリ之ヲ支給ス

第十三條 府縣ノ議員タルヲ得ヘキ者ハ滿二十五歲以上ノ男子ニシテ其府縣内ニ本籍ヲ定メ滿三年以上住居シ其府縣内ニ於テ地租拾圓以上ヲ納ムル者ニ限ル但左ノ各款ニ觸ル、者ハ議員タルヲ得ス

第一款 風癩白痴ノ者

第二款 懲役一年以上及國事犯禁獄一年以上實決ノ刑ニ處セラレタル者

十二年十三号
ヲ以テ二款中
及以下十字ト

但書トヲ加フ

但滿期後七年ヲ經タル者ハ此限ニアラス

第三款 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四款 官吏及教導職

第十四條 議員ヲ選舉スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歲以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ本籍ヲ定メ其府縣内ニ於テ地租五圓以上ヲ納ムル者ニ限ルヘシ

但前條ノ第一款第二款第三款ニ觸ル、者ハ選舉人タルヲ得ス

第十五條 議員ヲ撰舉セントスルハ府知事縣令ヨリ某月間ニ撰舉會ヲ開クヘキ旨ヲ布令シ郡區長ハ豫メ撰舉ノ投票ヲ爲スヘキ日ヲ定メ少クハ十五日前ニ之ヲ郡區内ニ公告スヘシ

第十六條 選舉ノ投票ハ豫定ノ日ニ郡區廳ニ於テ之ヲ爲シ郡區長之ヲ調査シ撰舉會中ノ取締ヲ爲スヘシ但便宜ニ因リ郡區廳外ニ於テ撰舉會ヲ開クヲ得

第十七條 投票ハ豫メ郡區長ヨリ付與シタル用紙ニ撰舉人自己及ヒ被撰人ノ住所姓名年齢ヲ記シ豫定ノ日之ヲ郡區長ニ出スヘシ投票ハ多數ノ者ヲ以テ當撰

人トシ同數ノ者ハ年長ヲ取り同年ノ者ハ圖テ以テ之ヲ定ム
但投票ハ代人ニ托シ差出スモ妨ナシ

第十八條 投票終ルノ後郡區長ハ撰舉人名簿ニ就テ投票ノ當否ヲ查シ又被撰人名簿ニ就テ當撰人ノ當否ヲ查ス若シ法ニ於テ不適當ナル者アルカ或ハ當撰人自ラ其撰ヲ辭スルキハ順次投票ノ多數ヲ得タル者ヲ取ル

第十九條 當撰人ノ當否ヲ査定スルノ后郡區長ハ其當撰人ヲ郡區廳ニ呼出シ當撰狀ヲ渡シ當撰人ハ請書ヲ出スヘシ

但當撰人各請書ヲ出シタル后郡區長ハ其姓名等ヲ郡區内ニ公告スヘシ

第二十條 一人ニシテ數郡區ノ撰ニ當ルキハ其何レノ郡區ニ屬スヘキハ當人ノ好ニ任スヘシ

第二十一條 議員ノ任期ハ四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改撰ス第一回二年期ノ改撰ヲ爲スハ抽籤法ヲ以テ其退任ノ人ヲ定ム

第二十二條 議長副議長ノ任期ハ二年トシ議員ノ改撰毎ニ之ヲ公撰スヘシ

第二十三條 前一條ノ場合ニ於テハ前任ノ者ヲ再撰スルコトヲ得

第二十四條 議員中第十三條ニ掲クル諸款ノ場合ニ遭遇スル者アルカ其府縣外ニ轉住スルカ又ハ死去シタルキハ更ニ其欠ニ代ル者ヲ撰舉ス其疾病等止ムヲ得サル事故ナクシテ開會ノ招集ニ應セサル者ハ退職者トシ亦其欠ニ代ル者ヲ撰舉ス

第三章 議則

第二十五條 議員半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第二十六條 會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第二十七條 府知事縣令若クハ其代理人ハ會議ニ於テ議案ノ旨趣ヲ辨明スルヲ得但決議ノ數ニ入ルコトヲ得ス

第二十八條 會議ハ傍聽ヲ許ス但シ府知事縣令ノ要メニ依リ又ハ議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルヲ得

第二十九條 議員ハ會議ニ方リ充分討論ノ權ヲ有ス然レモ人身上ニ付テ褻貶毀譽ニ涉ルコトヲ得ス

第三十條 議場ヲ整理スルハ議長ノ職掌トス若シ規則ニ背キ議長之ヲ制止シテ其命ニ順ハサル者アルキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退去セシムルヲ得其強暴ニ涉ル者ハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルヲ得

第四章 開閉

第三十一條 府縣會ハ毎年一度三月ニ於テ之ヲ開ク其開閉ハ府知事縣令ヨリ之ヲ命シ會期ハ三十日以内トス但府知事縣令ハ會議ノ衆議ヲ取リテ其日限ヲ伸ルコトヲ得ルト雖モ其事由ヲ直ニ內務卿ニ報告スヘシ

第三十二條 通常會期ノ外會議ニ付スヘキ事務アル時府知事縣令ハ臨時會ヲ開クコトヲ得

但該會ヲ要スル事由ヲ直ニ內務卿ニ報告スヘシ

第三十三條 會議ノ論說國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ル

キハ府知事縣令ハ會議ヲ中止セシメ內務卿ニ具狀シテ其指揮ヲ請フヘシ

第三十四條 會議中國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムル時ハ內務卿ハ何レノ時ヲ問ハス閉會ヲ命シ又ハ議員ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第三十五條 內務卿ヨリ解散ヲ命シタルキハ更ニ議員ヲ改撰スヘシ

第十九號 七月二十二日 十三十六號 改正ス

從前府縣稅及民費ノ名ヲ以テ徵收セル府縣費區費ヲ改メ更ニ地方稅トシ規則左ノ通被定候條此旨布告候事

第一條 地方稅ハ左ノ目ニ從ヒ徵收ス

一 地租五分一以内

一 營業稅并雜種稅

一 戶數割

第二條 營業稅雜種稅ノ種類及制限ハ別段ノ布告ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費目左ノ如シ

十一年三十九號ヲ以營業稅及雜種稅ノ種類及制限ヲ定ム

- 一 警察費
 - 一 河港道路堤防橋梁建築修繕費
 - 一 府縣會議諸費
 - 一 流行病豫防費
 - 一 府縣立學校費及小學校補助費
 - 一 郡區廳舍建築修繕費
 - 一 郡區吏員給料旅費及廳中諸費
 - 一 病院及救育所諸費
 - 一 浦役場及難破船諸費
 - 一 管内限リ諸達書及揭示諸費
 - 一 勸業費
 - 一 戸長以下給料及戸長職務取扱諸費
- 各町村限及區限ノ入費ハ其區内町村内人民ノ協議ニ任セ地方稅ヲ以テ支辨ス

ルノ限ニアラス

第四條 其年七月ヨリ翌年六月迄ヲ一周年度トナシ府知事縣令ハ其年二月迄ニ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算并地方稅徵收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其府縣會ノ議決ヲ取り其年五月ヨリ以テ内務卿及大藏卿ニ報告スヘシ其未タ府縣會ヲ設置セサル地方ハ直ニ内務卿及大藏卿ニ報告スヘシ

第五條 非常ノ費用ハ豫算ニ立ツルヲ得サル別ニ賦課スルヲ得ルト雖モ其府縣會ノ議決ヲ取り内務卿及大藏卿ニ報告スルハ第四條ノ順序ニ從フヘシ其急施ヲ要スル事項ハ施行シテ後報告スヘシ

但シ報告期限ハ第七條ニ依ル

第六條 地方稅徵收ノ期限ハ府知事縣令適宜ニ之ヲ定ムヘシ

第七條 府知事縣令ハ毎年七月ニ至リ其一周年度間ノ出納ヲ計査シ精算帳及計表ヲ製シテ内務卿及大藏卿ニ報告スヘシ且翌年通常會議ノ初メニ於テ之ヲ府縣會ニ報告スヘシ

十一年內務省
甲二十七号ヲ
以十二年五月
一日ヨリ施行
ス

第二十号 八月三日

〔十二年四十六号ヲ以廢止ス〕

常備兵役ヲ竟ヘサル前分家ノ儀相成ラス尤徵兵令第三章第一二條ニ照シ免役セラレタル者等ハ分家ヲ許ス

第二十一号 八月九日

明治三年八月布告阿片取扱規則ヲ廢シ藥用阿片賣買并製造規則左ノ通相定候條此旨布告候事

但施行ノ時日ハ退テ內務省ヨリ可相達事

藥用阿片賣買并製造規則

第一條 阿片ノ賣買及ヒ製造ハ藥用品ニ限リ此規則ニ依テ之ヲ許可ス

第二條 藥用阿片ハ其內國產若クハ外國產ヲ論セス總テ內務省ニ於テ其品位ヲ

定メテ之ヲ買上ケ然ル後チ各司藥場ヨリ阿片卸シ賣特許藥舖ニ拂下ケ之ヲ賣

捌カシムヘシ

但司藥場ヲ置カサル地方ニ於テハ該地方廳ヨリ之ヲ拂下ケヘシ

第三條 各司藥場ヨリ拂下ケル所ノ阿片ハ量目壹匁ヲ以テ一器トシ每器司藥場ノ印紙ヲ貼附スヘシ

第四條 地方廳ハ土地ノ廣狹位置ヲ度リ一管内相當ノ人員ヲ限リ藥舖ノ身元人

物ヲ選ミテ內務省ニ稟議シ鑒札ヲ受ケテ之ヲ本人ニ交付スヘシ

但廢業ノ者アル節ハ其鑒札ヲ內務省ニ返納スヘシ

第五條 特許鑒札ヲ受タル藥舖ノ住所姓名ハ該管轄廳ヨリ管内ノ公私病院醫師

藥舖一般ニ報告スヘシ

但廢業ノ者アル節モ本文ニ準シ速ニ報告スヘシ

第六條 特許鑒札ヲ受タル藥舖ハ其店頭ニ特許藥用阿片賣捌所ト大書シタル看

板ヲ掲ケ置クヘシ

第七條 特許ヲ受タル藥舖ハ半年分賣捌ノ高ヲ豫算シ毎年兩度最寄司藥場

キ地方ハニ申立テ其拂下ケヲ請フヘシ但缺乏ノ節ハ臨時拂下ケヲ請フコトヲ

得

第八條 凡シ醫師病院及ヒ一般藥舖等ニ於テ藥用阿片ヲ要スルキハ其量目并ニ其住所姓名及年月日病院ハ其名稱及ヒ院長若クハ副長ノ姓名ヲ記シ調印シタル證書ヲ以テ特許藥舖ニ就キ之ヲ購求スヘシ特許藥舖ニ於テハ之ヲ賣渡スニ其量目一度ニ四拾匁ヲ超ヘカラス

但病院及醫師等ニ於テ便宜ニ依リ一般藥舖ニ就キ之ヲ購求スルト一般藥舖相互ニ賣買スルトハ妨ケスト雖モ必ス本條ノ證書ヲ以テスヘシ且其量目一度ニ八匁ヲ超ヘカラス

第九條 凡テ内外國人共醫師ノ處方箋ヲ持參シタル者ノ外ハ特許藥舖并ニ一般藥舖ニ於テ一切之ヲ賣渡スヘカラス

第十條 特許藥舖ハ每半年分阿片拂受并ニ壹匁以上賣捌ノ高及ヒ買入ノ住所姓名并ニ壹匁以下賣捌ノ総高等明細表正副二通ヲ造リ其管轄廳ニ差出スヘシ尤壹匁以下ノ分ハ平常其明細ヲ簿記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ但管轄廳ハ其一通ヲ內務省ニ進達スヘシ

第十一條 醫師病院一般藥舖ニ於テハ每半年必シモ前條明細表ヲ差出スヲ要セスト雖モ平常其明細ヲ簿記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

第十二條 藥用阿片ヲ製造セント欲スル者ハ罌粟ノ種類及ヒ培養採取製造ノ方法ヲ記シ管轄廳ヲ經由シテ內務省ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第十三條 阿片製造人ハ其製造シタル阿片ノ量目ヲ記シ署名調印シタル願書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ內務省ノ買上ケヲ願フヘシ右買上ケヲ受クルノ外決シテ内外人民ニ販賣スルコトヲ許サス

但司藥場ニ於テ其品位藥用ニ適セサル者トスルキハ地方廳ヨリ其旨ヲ製造人ニ通知シ其阿片ハ其廳ニ預リ置クヘシ

第十四條 阿片買上ケ及ヒ拂下ケノ代價ハ歲ノ豐凶及ヒ外國一般ノ相場等ニ因テ高低アルヘシト雖モ其品位ニ應シテ價格ヲ定ムルハ該藥主用ノ性分即チ「モルヒチ」ノ多少ニ因ルヘシ

第十五條 內務省ニ買上ケ及ヒ拂下ケル所ノ阿片ハ百分中ニ「モルヒチ」六分以

○第三十号

九月三十日

本年五月第八号布告株式取引所條例第十一章ニ掲載スル税額ノ儀ハ手数料其他現收セル總金高十分ノ一ト相定メ本年七月ヨリ徴収候條此旨布告候事

但納期ハ一ケ年兩度ニ區分シ前半年分ハ七月三十一日限り後半年分ハ一月三十一日限り其管轄廳へ可相納事

○第三十一号

十月一日

九年八月第六号布告國立銀行條例第五十七條ヲ改正ス

○第三十二号

十月十五日

八年四月第六十六号布告内國船難破及漂流物取扱規則中第三十八條ヲ增加ス

○第三十三号

十月二十一日

違式註違條例中贖金ヲ科料ト改メ同條例第三條ヲ改正ス

○第三十四号

同日

十年十一月第七十九号布告中ニ第五條第六條ヲ追加ス

○第三十五号

十一月二十六日

明治八年二月第三十五号布告貿易銀増量圖畫改正ノ分鑄造ヲ見合セ同七年三月第三十四号

布告貿易壹圓銀圖畫改正ノ分ヲ再鑄發行候條此旨布告候事

但貿易壹圓銀一般通用ノ儀ハ明治十一年五月第十二号布告ノ通可相心得事

○第三十六号

十二月二日

帶勳有位ノ輩新年并紀元節天長節參賀ノ儀左ノ通被定候條此旨布告候事

一非役勳六等以上同從六位以上在京ノ輩ハ參内拜賀シ他ハ所在ノ地方廳ヲ經テ

賀表ヲ上ルヘシ

但在官職ト雖モ判任以下ハ仍ホ非役ニ同シ

一非役勳七等以下同正七位以下ハ其身所在ノ地方廳ニ參賀スヘシ

但等外吏タルノ類ハ仍ホ非役ニ同シ

一勳三等以上從三位以上ハ皇居中任切門迄乘車馬ヲ得ヘシ

但在官職ノ廉ヲ以テ參上ノ節ハ其官職ノ本分ニ從フヘシ

十二年四月十一号ヲ以但書追加

一勳六等以上從六位以上ハ 皇居御門臺迄乘車馬車寄ヨリ昇降ヲ得ヘシ

但在官職ノ廉ヲ以テ參上ノ節ハ上ニ同シ

○第三十七号 十二月九日

明治九年^{十二月} 第五百五十四号布告西洋形船水先免狀規則別冊ノ通改正候條此旨布告候事

西洋形船水先免狀規則

第一條 明治十二年一月一日ヨリ以後下ニ記載スル海港即チ水先區ニ於テ西洋形船舶ノ水先人トナリ營業スル者及ヒ西洋形船舶ノ水先船トシテ使用スル諸船ヘハ此規則ニ從テ發行スル免狀ヲ交付スヘシ

第二條 水先ノ事業ニ關係シタル諸般ノ事務ハ内務省ノ統轄ニ屬シ同省ニ於テハ充分其筋ヲ明カナル者ヲ撰ミ此規則ニ準據シテ各試驗出願人ヲ試驗スヘシ

第三條 免狀ハ左ニ記載ノ海港即チ水先區ニ於ケル水先人ニ交付シ且現況ニ從テ其他ノ地方ニ於ケル水先人ニ交付スヘシ

第一 東京灣

即チ伊豆國石廊岬ヨリ同國神子本島及ヒ大島波浮港ヲ通過シテ安房國野島岬ニ至ル一線ヲ以テ疆界線トス

第二 和泉灘

即チ紀伊國宮岬ヨリ淡路國潮崎ノ仁頃ニ至ル一線ヲ以テ其南界ヲ畫シ北ハ淡路國極北ノ部ニ於ケル東經百二十五度ノ所ニ於テ畫シタル一線ヲ以テ疆界線トス

第三 和泉灘ヨリ瀬戸内ヲ通過シテ長崎迄

第四 長崎港

即チ肥前國福田村ヨリ同國伊王島ノ極北ヲ通過シ同國沖島及ヒ香燒島ヲ經テ同國深堀ニ至ル一線ヲ以テ疆界線トス

第五 津輕海峽

即チ陸奥國尻矢崎ヨリ渡島國惠山崎ニ至ル一線ヲ以テ其東界ヲ畫シ

陸奥國大間村ヨリ同國龍飛埼ニ至ル一線ヲ以テ其南界ヲ畫シ同國龍
飛埼ヨリ渡島國白神埼ニ至ル一線ヲ以テ其西界トス

第四條 各海港即チ水先區内ニ供備スヘキ免許水先人ノ員數ハ其海港即チ水先
區ノ現況ニ從フヘシ

第五條 水先人ノ免狀ヲ出願スルモノハ自己ノ技業及ヒ性質殊ニ平素ノ行狀ニ
係リ確實ナル履歷証書ヲ豫テ其本貫又ハ寄留地ノ地方官廳ヲ經テ內務省ヘ差
出シ置キ或ハ試験開場ノ時ニ於テハ直ニ司驗官ヘ差出スヘシ

第六條 水先人タル者ハ年齡二十二歳ニ滿チ少クモ一ケ年間ハ一百噸以上ノ西
洋形船ニ於テ船長若クハ一等運轉手ノ職ヲ執リシ者若クハ六ケ年間航海ニ從
事シ其中一ケ年間ハ自今營業免許ヲ受ケントスル水先區内ニ於テ既ニ水先見
習人トナリ航海ニ從事セルモノニ限ルヘシ但シ其水先區内ニ在ル諸港灣海峽
及ヒ碇泊場ハ勿論危險ノ場所及ヒ之ヲ避ルタメノ重立タル記標或ハ方位又ハ
潮ノ滿干潮流燈光浮標礁標ノ位置ニ悉皆通曉シ且大船ヲ指揮シテ之ヲ運轉ス

ルニ充分適當セリト司驗官ヲ満足セシムルヲ要スヘシ

第七條 受験人試験ヲ受テ正シク須要ノ條件ニ叶ヒタルト司驗官之ヲ認ムル時
ハ其旨ヲ內務省ニ報告シテ直ニ免狀ヲ交付スヘシ但シ此免狀ハ翌年一月一日
以後ハ全ク其効力ヲ有セサルモノトス

第八條 免狀ノ書替ヲ請願セントスル者ハ毎年十一月一日以前其願書ヲ內務省
ヘ差出スヘシ但シ之ヲ許可シ或ハ許可セザルトハ都テ內務省ノ意見ニ因ルヘ
シ

第九條 免狀ヲ遺失スルモノ又ハ摩損スルモノハ其事由ヲ記シタル願書ヲ內務
省ヘ差出シ書替新免狀ヲ申請クヘシ

第十條 水先人ハ始メテ其免狀ヲ願受ル時金拾圓又其書替毎ニ金壹圓ノ手数料
ヲ上納スヘシ

第十一條 水先人ノ試験ヲナス時ハ定日ヨリ少クモ十四日前其旨ヲ和洋兩種ノ
新聞紙ヲ以テ公告スヘシ此公告ニハ其免狀ヲ與フヘキ人數ノ限リ及ヒ試験ノ

場所月日ヲモ記載スヘシ

第十二條 試驗出願人ノ履歷証書ヲ以テ充分満足ノモノト爲ル時ハ其出願ノ順次ヲ以テ其姓名ヲ登簿シ登簿ノ順次ニ從テ之カ試驗ヲナスヘシ

第十三條 此規則ニ從テ水先免狀ヲ受ケタル外國人ハ其執業上ニ限り日本帝國内何レノ海岸ト雖モ上陸シ且其出發地ヘ陸路歸ルヲ得ルノ特許ヲ與フヘシ

第十四條 第三條ニ規定セル水先區内ニ於テ無免許ノ水先人船舶ヲ嚮導スルキ免許水先人ヨリ其船舶ノ嚮導ヲナサント申入レ又ハ其爲メ信號ヲナスキハ何時ニテモ免許水先人ヘ其職ヲ讓ルヘシ其職ヲ讓ルヲ拒ミ仍ホ其船舶ヲ嚮導シ或ハ免許水先人ト詐稱シ正當ナラサル免狀ヲ用ユル者ハ五拾圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ

第十五條 水先料ハ別表ニ記ス金高ニ超過スヘカラス但シ表中記載セサルモノハ其距離ノ遠近ニ隨テ船長ト水先人ノ間ニ相當ノ約束ヲ以テ定ムヘシ

第十六條 二人以上ノ免許水先人同時ニ於テ船舶ノ嚮導ヲ申入レ又ハ其信号ヲ

ナスキハ最初現ニ乗船シタル者其嚮導ヲ爲シ其水先料ヲ收領シ得ヘシ

第十七條 免許水先人水路嚮導専用ノ水先船ハ第十九條第一節第二節ニ示セル式ノ如ク之ヲ製シ其免狀ヲ内務省ヘ願出ツヘシ内務省ハ検査ノ上其免狀ヲ與フヘシ但此免狀ハ水先人免狀同様其効一ケ年ニ限ル者トシ年々其書替ヲ願出ツヘシ

第十八條 各免許水先船ハ免許ヲ得タル區域内ニ於テ其水路嚮導専用ノ爲ニハ港灣稅噸稅燈臺稅等ノ諸稅ヲ免スヘシ

第十九條 各水先船ハ左ノ徵候ヲ以テ區別スヘシ

第一 水先船ノ外部ハ總テ黑色タルヘシ

第二 船尾及ヒ大帆ノ上部ニ於テ國字及ヒ羅馬字ニテ免許水先船ノ文字并ニ其番号ヲ明瞭ニ書スヘシ

第三 免許水先船ニ免許水先人ノ乗込アル時ハ桅上或ハ船首或ハ旗竿若クハ他ノ認メ易キ場所ニ於テ日出ヨリ日没マテ水先旗ヲ懸揚スヘシ但

シ水先旗ハ明治十年一月甲第一号海軍省布達ニ照準スヘシ
第四 免許水先入ノ乗込ミタル免許水先船ハ夜間其停留場ニ碇泊中モ亦運

用中ニ於ケルモ地平ノ各所ヨリ認め易キ桅上ニ於テ日没ヨリ日出マ
テ透明ノ白燈ヲ掲ケ又十五分時毎ニ閃光ヲ發スヘシ而シテ總テ其他
ノ時間ニ於テハ風帆船同様尋常ノ舷燈ヲ掲クヘシ

第二十條 日中ニ於テ左ニ記載スル信號ヲ標示スル時ハ水先ヲ要求スルノ信號
ト認ムヘシ

第一 前檣ニ於テ其船ノ船首旗 英語「J」 又ハ國旗ヲ掲揚スルコト

第二 萬國普通ノ水先信號 P T ノ符字ヲ揭示スルコト

夜間ニ於テ左ノ信號ヲ同時若クハ別時ニ表示スル時ハ水先ヲ要求スルノ信號ト
認ムヘシ

第一 十五分時毎ニ青燈ヲ掲出スルコト

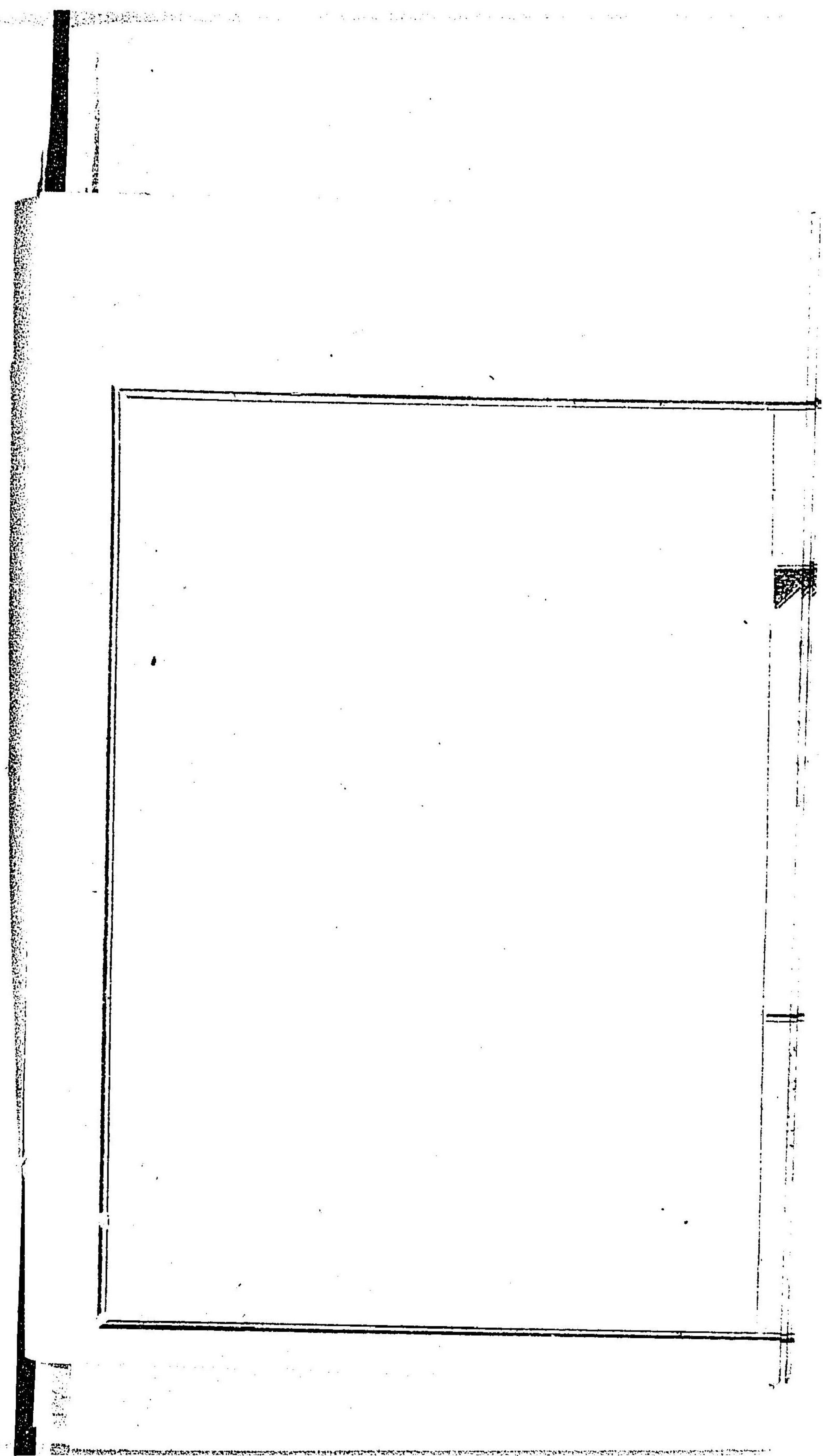
第二 須臾ノ間歇ヲ以テ凡ソ一分時ノ間透明ナル白燈ヲ上甲板ノ舷部ニ於

テ射發スルコト

第二十一條 各免許水先人ヘハ其免狀ハ勿論此規則ノ寫チ一通ツ、交付スヘシ
故ニ其筋ノ官吏又ハ雇主ヨリ其書類ノ閱覽ヲ要スル時ハ直ニ之ヲ示スヘシ若
シ之ヲ拒ム時ハ内務省ニ於テ其執業ヲ停止シ或ハ其免狀ヲ取上クヘシ

第二十二條 此免狀ハ他人ニ貸與シ或ハ讓與スヘカラス若シ貸與シ或ハ讓與ス
ル時ハ内務省ニ於テ其免狀ヲ取上クヘシ

第二十三條 内務省ニ於テ免許水先人其本分ノ職務ニ堪サルカ若クハ亂醉又ハ
不行跡アルカ或ハ故ナクシテ其職務ヲ執ルコトヲ嫌ヒ若クハ之ヲ怠リタルコト
アリト思惟スル時ハ同省ヨリ吏員ニ命シテ之ヲ審問セシメ其情狀ニ隨ヒ其執業
ヲ停止シ或ハ其免狀ヲ取上クヘシ



第一類	諸會社及ヒ諸御賣商	...
第二類	諸仲買商	...
第三類	諸小賣商及ヒ雜商	...

第一條 營業稅分ツテ三類トス其稅額第一類ハ金拾五圓以内トシ第二類ハ金拾圓以内トシ第三類ハ金五圓以内トス其目左ノ如ク但國稅アモホノナク
 第二條 雜稅ハ其種類ニ依リ各個ニ稅額ヲ定ム其目左ノ如ク

水災博覧會表

○第三十八号 十二月十九日

明治十二年郵便規則及罰則別冊ノ通ニ候條此旨布告候事 (別冊略ス)

●第三十九号 十二月二十日 (十三年十七号) (以テ改正ス)

地方稅中營業稅雜稅ノ種類及ヒ制限左ノ通相定候條此旨布告候事

第一條 營業稅分ツテ三類トス其稅額第一類ハ金拾五圓以内トシ第二類ハ金拾圓以内トシ第三類ハ金五圓以内トス其目左ノ如ク但國稅アモホノナク

- 第一類 諸會社及ヒ諸御賣商
- 第二類 諸仲買商
- 第三類 諸小賣商及ヒ雜商

第二條 雜稅ハ其種類ニ依リ各個ニ稅額ヲ定ム其目左ノ如ク

船 明治七年第二十一号
布告舩漁船云々ノ分 車 馬車 人力車 荷積馬車 荷積大七
大八車 荷積中小車 荷積牛車ノ類 國稅ノ半額
以內

諸市場演劇其他諸興行并遊覽所 上リ高百分五以內

諸遊技場 玉突 大弓揚弓 壹ケ年金貳拾圓以內
射的 吹矢ノ類

料理屋 西洋料 待合茶屋 遊船宿 芝居茶屋 人寄席 壹ケ年金拾貳圓以內
理屋共

質屋 兩換屋 爲替 廻漕店 壹ケ年金拾五圓以內
店共

古着古金古道具類 書畫骨 旅籠屋 諸飲食店 鱧屋 鮓屋 壹ケ年金拾圓以內
董店共商

內

湯屋 理髮床 雇人受宿 壹ケ年金五圓以內

遊藝師匠 遊藝稼人 相撲 壹ケ年金拾貳圓以內

俳優 壹ケ年金六拾圓以內

詰問 藝妓 壹ケ年金四拾貳圓以內

水車 壹ケ年金五圓以內

乘馬 自用渡 壹ケ年壹頭ニ付金壹圓以內
世共

屠牛 壹頭ニ付金五拾錢以內

第三條 漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ若シ其例規ヲ改
正シ又ハ新法ヲ創設セントスルモノハ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ヘ稟議ス
ヘシ

第四條 府知事縣令ハ府縣會ノ決議ヲ以テ第一條第二條類目中ニ於テ賦課スル
者ヲ取捨スルヲ得

第五條 府知事縣令ハ其賦課スヘキ各業ノ盛衰ヲ視察シ府縣會ノ決議ヲ以テ稅
額制限内ニ於テ各個ノ稅額ヲ査定スヘシ

第六條 一軒内ニ於テ數種ノ營業ヲ爲スモノ又ハ卸賣仲買小賣ヲ兼ヌルモノハ
其稅額ノ最モ多キモノ壹個ノミヲ徵收スヘシ

第七條 凡ソ稅額ハ壹ケ年ヲ以テ其制限ヲ定ムト雖モ各地ノ便宜ニ依リ年額ニ
準據シ日稅月稅トシテ之ヲ徵收スルコトヲ得

第八條 第四條第五條ニ於テ確定シタル課目課額ハ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ報告スヘシ

○第一号 一月四日

名例律五刑條例中梟首ノ刑ヲ廢シ其罪梟首ニ該ル者ハ一體ニ斬ニ處スノ一條ヲ創定ス

●第二号 一月十七日

本年八月中英國屬地豪斯太刺里ニウ、ソ、ス、ウ、エ、ールズ洲シドニ一府ニ於テ萬國博覽會開設ニ付國內人民ノ出品ヲ許ス

○第三号 一月二十日

九年八月第六号布告國立銀行成規第二十四條ヲ改正ス

○第四号 二月一日

九年八月第五号布告米商會所條例中改定ス

○第五号 二月十日

自今西洋形商船ハ總テ沿海管廳ノ所轄ニ被附候條來ル七月三十一日迄ニ本船ノ定繫港ヲ定メ其地ノ船籍ニ編入致スヘシ

但定繫港ハ船主又ハ本船ノ公務ヲ代理スル者所在ノ地ニ於テ定ムヘシ
右布告候事

○第六号 二月十日

地所賣買讓與等ノ節ハ總テ地券書換下ケ渡スヘキ成規ノ處自今其券狀餘白アル
モノハ管轄廳ニ於テ其裏面ヘ確認ノ証ヲ記シテ下ケ渡スヘシ此旨布告候事
但証印税ノ儀ハ従前ノ通

○第七号 二月十日

六年一月第十八号布告地所質入書入規則第五條改正ス

○第八号 二月十三日

從來神奈川縣下橫濱港ニ於テ洋銀相場取引致シ候者有之候處右ハ一切禁止候條
自今洋銀取引所設立營業致シ度者ハ昨十一年五月第八号布告株式取引所條例ニ照
準シ大藏卿ヘ可願出此旨布告候事

但資本金ハ拾萬圓以上賣買証據金ハ百分ノ三以上タルヘシ

十三年二十号
ヲ以但書ヲ廢
ス

○第九号 二月十九日

十三年十号ヲ
以商ノ字ヲ刪
ル

西洋形商船海員雇入雇止規則別冊ノ通相定來ル八月十六日ヨリ施行候條此旨布
告候事 (別冊略ス)

○第十号 二月廿七日

七年五月第五十三号布告ヲ以テ追加ノ地租改正條例第八章但書削除ス

○第十一号 三月廿七日

明治十年六月第四十五号布告萬國郵便聯合條約ノ儀同十一年六月佛國巴黎斯府ノ
郵便大會議ニ於テ別冊ノ通改正決議相成候條當十二年四月一日ヨリ實施可致此
旨布告候事 (別冊略ス)

○第十二号 三月廿八日

六年三月第一号布告鐵道犯罪罰例中禁錮ヲ禁獄ニ改メ第二條第九條第十一條ヲ
改正ス

○第十三号 四月四日

明治十二年

十一年七月第十八号布告府縣會規則第十三條第二款ヲ改正ス

○第十四号 同日

琉球藩ヲ廢シ沖繩縣ヲ被置候條此旨布告候事

但縣廳ハ首里ニ被置候事

○第十五号 四月八日

鹿島縣管轄大島喜界島德ノ島沖永良部島與論島ヲ以テ大島郡ト爲シ大隅國へ被屬候條此旨布告候事

●第十六号 五月三日

六年六月第二十三号布告自今廢止ス

○第十七号 五月十二日

自今東京上等裁判所管轄内へ小笠原島被加候條此旨布告候事

●第十八号 五月十四日

七年九月第九十八号布告電信條例第十七條ヲ刪除ス

○第十九号 五月十五日

七年八月第八十八号布告航海公証規則ヲ廢シ三年正月二十七日布告中西洋形船免狀改正ス

●第二十号 六月六日

來十三年十月中英國屬地豪洲ウイクトリヤ國メルボルン府ニ於テ萬國博覽會開設ニ付國內人民ノ出品ヲ許ス

○第二十一号 六月十三日

本年七月一日ヨリ左ノ物品無稅輸出差許候條此旨布告候事
但課稅ノ額ハ二ケ月前ニ布告スヘキ事

木綿織物 絹織物 絹綿交織物

衣服 陶器 磁器

七寶器 漆器 竹器

銅器 鑄器 紙

○第二十二号

六月廿四日

區會町村會ヲ開設セル地方ニ於テハ明治九年十月第百三十号布告金穀公借共有物取扱土木起功ノ事項ハ總テ該會議ニ付シ施行スヘシ此旨布告候事

●第二十三号

六月廿七日

〔十二年三十二号ヲ以テ更正ス〕

虎列刺病豫防假規則ヲ定ム

○第二十四号

六月三十日

十年十一月 第七十八号布告郵便はかき三錢五錢六錢ノ三種ヲ廢止シ更ニ同切手三錢五拾錢ノ二種并はかき貳錢三錢ノ二種發行見本ヲ示ス

○第二十五号

七月一日

今般亞米利加合衆國ト別冊ノ通改定結約相成候條此旨布告候事 (別冊略ス)

○第二十六号

七月五日

八年五月第九十五号布告新舊公債証書發行條例第五條第六條并ニ八年八月第百三十

号布告第二項及ヒ十一年九月第二十六号布告金祿公債証書發行條例第二條ノ但書追加改正ス

○第二十七号

同日

神嘗祭日自今十月十七日ニ改定候條此旨布告候事

●第二十八号

七月十四日

〔十二年廿九号ヲ以テ更正ス〕

海港虎列刺病傳染豫防規則ヲ定ム

○第二十九号

七月廿一日

明治十二年七月第二十八号布告海港虎列刺病傳染豫防規則別冊ノ通更正シ檢疫候條規則ト改稱候條此旨布告候事

檢疫停船規則

第一條 日本政府ハ虎列刺病ノ蔓延ヲ防カメテ茲ニ左ニ掲クル規則ヲ開港場

ニ適用スルモノトシテ布告ス而シテ更ニ其施行ノ停止ヲ令スル迄ハ之ヲ實施スルモノトス

第二條 中央衛生會ニテ決スル處ノ開港場ニ官吏及ヒ至當ノ教育ヲ受ケ能ク職任ニ堪ユヘキ日本又ハ外國醫士化學士及ヒ相當ノ助役 以テ地方檢疫局ヲ設置スヘシ而シテ其局員ノ數ハ其港入船ノ多寡ニ應ジテ増減アルヘシト雖モ檢疫一切ノ事務ヲ速ニ整理スルニ差支ナキヲ以テ是レリトスヘシ
都テ此地方檢疫局ハ中央衛生會ノ管轄ニ屬スヘシ

第三條 政府ハ檢疫停船規則ヲ施行スル各開港場ニ於テ停船場ヲ定メ且虎列刺患者ヲ容ルヘキ病院并ニ該病ノ疑アル患者ヲ容ルヘキ病院ヲ建設シ且遺骸ヲ處置スヘキ地消毒法ヲ施行スヘキ場所并ニ停留セラレタル人ノヲメ都テ必需ノ具ヲ備ヘタル屋舎ヲ設置スヘシ

第四條 檢疫信号旗ヲ掲ケタル番船ヲ各港口ノ近傍ニ置キ各船入港ノ前檢疫ノヲメ之ヲ停止シ地方檢疫局ノ人員少クモ二名ヲ派出シテ之ヲ検査スヘシ但右番員ノ内一名ハ必ズ醫士タルヘシ而シテ船長醫士或ハ船内ノ人ハ誰ニテモ檢疫官吏ノ尋問ニ對シ都テ之ニ應答シ又所定ノ式紙ニ事項ヲ記入シ其氏名ヲ記

シタル明告書ニ調印シテ差出スヘシ

船長ハ檢疫官吏ノ求メニ應ジ船内ク各部ヲ開キ検査ヲ受クヘシ但シ艙ハ航海中船客又乗組人ニテ占居シタルキ又ハ他ノ事故ニ依テ病毒ニ感染シタル恐ソアルキハ其検査ヲ受クヘシ

檢疫官吏ハ該船ノ航海日記ヲ査閲シ乗組人及ヒ船客ノ人名録ヲ船内現在ノ人員ト引合ハスヲ得ヘシ

第五條 虎列刺病流行セサル港又ハ其疑ナキ港ヨリ來航スル船ノ船長ハ明告書及其他ノ手續ヲ以テ該船有病ノ港又ハ其疑アル港ニ立寄ラス又有病ノ船舶若クハ其疑アルモノト直チニ交通セス且航海中眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲモ船内ニ發セシモノ無キ旨ヲ証明シテ檢疫官吏ヲ満足セシムルキハ該船ハ直チニ入港スルヲ得ヘシ

軍艦ハ其艦長及醫官ニテ調印セル書面ヲ以テ前條ノ趣ヲ明告スル迄ニテ足リトスヘシ而シテ該艦ハ検査ヲ經ス入港スルヲ得ヘシト雖モ若シ右ノ書面ヲ

差出サ、ルキハ檢疫停船規則ニ從フヘシ

第六條 船内ニ眞性虎列刺病若シハ疑似症ニ罹リタル者無シト雖モ有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ルカ又ハ其航海中直ニ有病ノ船若クハ其疑アルモノト交通シタル船舶及ヒ船内ノ人員ハ其港ヨリ出帆ノ日又ハ有病若クハ其疑アル船ト交通ノ日ヨリ起算シテ七日ノ期滿ツル迄ハ停留セシムヘシ但地方檢疫局ニ於テ右ノ時間ヲ短縮スルモ差支ナキヲ認ムルキハ此限ニアラス

右七日ノ期該船來着ノ上又ハ其前既ニ過キ去ルキハ消毒法ヲ行ヒシ上速ニ船客ノ上陸ヲ許スヘシ

一般ノ積荷ハ消毒法ヲ施スニ及ハス自餘ノ物品ハ檢疫官吏ノ見込ヲ以テ消毒法ヲ行ヒ或ハ行ハサルヘシト雖モ爛布古衣夜具ハ勿論其他檢疫官吏ニ於テ殊ニ危險ナリト見込ムモノハ消毒法ヲ行フヘシ

消毒法ヲ行ヒタル物品ハ速ニ陸揚スルヲ得ヘシト雖モ消毒法ヲ行ハサル物品ハ停船ノ定期滿ル迄陸揚スヘカラス若シ停船中眞性虎列刺及ヒ疑似症ヲ發

スルキハ其船及ヒ人員物品ハ都テ第八條第九條ニ從ヒ處置スヘシ

第七條 有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ル軍艦ハ其艦長及ヒ醫官ヨリ書面ヲ以テ該艦來港前七日以内艦内ノ者有病ノ港或ハ其疑アル港ニ上陸セシト無ク又ハ病毒感染ノ恐ナク且航海中艦内ニ眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲ發セシト無キ旨ヲ明告スルキハ直ニ入港スルヲ得ヘシ右ノ書面ヲ差出サ、ルキハ該艦ハ檢疫停船規則ニ從ハシムヘシ

第八條 船舶來港ノ上其船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スル者アルキハ檢疫官吏ニテ指示シタル停船場ニ移シテ要用ノ消毒法ヲ行ヒヨリ起算シテ七日ノ間停船セシムヘシ

船舶來港前病毒消滅シ而シテ檢疫官吏ノ満足スヘキ方法ヲ以テ消毒法ヲ施行セル上ハ地方檢疫局ニ於テ可トスル程停船ノ時間ヲ短縮シ得ヘシ

消毒法施行後停船中眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スル者アルキハ地方檢疫局ノ必要ト考斷スル程消毒法ヲ反覆施行シ其施行ノ時ヨリ起算シテ尙三日間

停船セシムヘシ但最初定メタル時限猶三日以上アルキハ最初定メタル時限ニ達スル迄停船セシムヘシ

患者及ヒ死者ノ遺骸ハ第九條ニ從ヒ處置スヘシ

第九條 前條ニ記スルカ如キ船舶ノ來着スルニ方リ其乗組ノ患者未タ癒エサレハ其容体ニ依リ之ヲ避病院ニ移シ若シ己ニ死シテ遺骸ノ處置未タ濟マサルキハ其爲メニ設ケタル場所ニ於テ火葬スルカ又ハ其關係アル者ノ望ミニ任セテ十分消毒法ヲ行ヒシ後埋葬スヘシ

患者及ヒ遺骸ヲ船中ヨリ他ニ移シタル後夜具衣類其他ノ物品及ヒ船内何レノ部分ニテモ病毒感染ノ恐アル者ハ地方檢疫局ニ於テ指示セル如ク十分ニ消毒法ヲ施スヘシ而シテ消毒法ヲ施ス爲メ要用ノ人ト船中ヲ取締ルヘキ人トノ外都テ船内ノ人員ハ其人ノ爲メ特ニ設ケル所ノ家屋ニ移シ消毒法ヲ行フヘシ船内ニ殘リタル人員ハ船内ニテ消毒法ヲ受クルカ又ハ交代シテ陸上ニアル適當ノ家屋ニ於テ之ヲ受クヘシ

第十條 有病ノ港或ハ其疑アル港ヨリ出帆シ途中ノ港ヲ經ルト雖モ其港ニ於テ檢疫處置ヲ受ケサル船舶ハ直チニ有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ルモノト認メ處置スヘシ

第十一條 定期郵便ヲ運搬スル諸船ハ着港ノ上速ニ其郵便物ヲ運送スルヲ得ヘシ而シテ政府ハ右ノ郵便物ヲ運送配達ノ爲メ至當ノ方法ヲ設クヘシ

第十二條 病院ニ入ル患者ハ治療及ヒ必要品ヲ受クルヲ得ヘシ

病院或ハ停泊ノ船内ニ在ル患者ヲ尋訪セント欲スル人ハ地方檢疫局ニ於テ定メタル方法ニ從フヘシ

避病院ニ關係ナキモ醫業ニ達シタル醫士ハ患者又ハ其代理人ノ請ニ由テ診察協議スルヲ得ヘシ

患者ハ醫士ヨリ退院ヲ許ス迄ハ病院ヲ退去スルヲ得ス

第十三條 船中ニ於テ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スルヲキ時ハ停留セラレタル人ヲ船中ニ停メ置クヲ得ヘシ又ハ地方檢疫局ニ於テ衛生上ノ見込ニ

從ヒ特ニ陸地ニ設ケアル避病ノ場所ニ移サル、コアルベシ

第十四條 檢疫停船規則施行ノ港ニ來着スル船舶ニ於テ檢疫官吏之ヲ虎列刺ノ源因ナラント思考スル疑似ノ病徴ヲ發スル者アルキハ其患者ハ病院ノ別室ニ移シ船ハ醫士ニ於テ其病症ヲ審斷スルニ充分ノ時間ヲ終ル迄停留セシムヘシ但其時間ハ四十八時ニ過クヘカラス而シテ地方檢疫局ハ醫士ノ報告ニ依リテ該規則ノ内其場合ニ適スル條款ヲ實施スヘシ

第十五條 有病ノ港又ハ其疑アル港ヲ發シ船用品或ハ荷物積込ノ爲メニ途中檢疫所ノ設ケアル無病ノ一港ニ立寄タル船舶ハ豫メ檢疫官吏ノ検査ヲ經且ツ必要ト認メタル消毒法ヲ行ヒ船用品或ハ貨物ヲ積入ル、毎ニ地方檢疫局ヨリ指示スル方法ニ從フ可シ

又該船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發シタルキハ該船又ハ其乗込人及ヒ物品ヲ處置スルハ第八條第九條ニ準スヘシ但シ該船内ヨリ上陸スル者アルキハ他船ニテ到着シタル人ニ行フヘキ同一ノ處置ヲ爲スヘシ

第十六條 船舶ノ検査ハ其來着後成ルヘク速ニ施行スヘシ若シ來着後十二時間ヲ過キテ検査ヲナサ、ル時ハ入港スルヲ得ヘシ但シ其遲延天氣惡キカ爲メカ又ハ避ケ難キ事情アルカ爲メカ又ハ船長若クハ該船ニ關係アル人ノ所行或ハ詐偽ニ出ツルカノキハ此限ニアラス其場合ニ於テハ其遲延シタルノ事故終リタルキ検査ヲ爲スヘシ

第十七條 地方檢疫局ヨリ指圖シタル消毒法ハ檢疫官吏之ヲ施行シ其船ノ士官及ヒ船員之ヲ補助スヘシ但消毒法ハ之ヲ命シタル時ヨリ成ルヘク二十四時間ニ完了シ而シテ其入費ハ船主又ハ其責アル者ヨリ辨償スヘシ

第十八條 檢疫停船規則ヲ施行スル港内ニ碇泊中船内ニ眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲ發シタル船舶ハ直ニ第八條第九條ノ規則ニ從フヘシ

然リト雖モ若シ其船既ニ本港ニ於テ停留ヲ經タル時ハ檢疫官ハ地方檢疫局ニテ必要ト考斷スル丈ケノミノ消毒及検査ノ方法ヲ反覆施行スヘシ

第十九條 虎列刺病既ニ流行スル港内ニ來着スル船舶検査消毒法患者及ヒ死者

ノ處置ヲ爲スハ前記ノ規則ニ從ハシムヘシ右ヲ施行スル爲メノ豫備ハ政府ニ於テ爲スヘシト雖モ船及ヒ人員停留ノ規則ハ休止スヘシ

第二十條 第六條第八條及ヒ第九條ニ記スル船舶ノ景狀地方檢疫局ニ於テ特ニ公眾ノ健康ニ危險ナリト思慮シ非常ノ處置ヲ必要トスルキハ此規則外ニ豫防ノ嚴制ヲ施スコトヲ得ヘシ其場合ニ方リテ地方檢疫局ハ直ニ中央衛生會ニ臨時ノ報告書ヲ差出スヘシ而シテ右報告書ノ寫ハ請求ニ依リテ地方檢疫局ヨリ之ヲ該船ノ船長船主又ハ其用達ニ付與スヘシ

第二十一條 検査中又ハ停留中ノ船舶又ハ停留人ノ寓所ニハ凡ソ何人ヲ問ハス地方檢疫局ノ許可ナクシテ往クコトヲ許サス

第二十二條 前條ノ規則ヲ施行スルニ就テ其人ニ係ル所ノ食料醫藥其他欠クヘカテサル費用ハ其本人又ハ代理人ヨリ辨償スヘシ

第二十三條 此規則ニ背キ或ハ從フコトヲ拒ム者ハ犯ス毎トニ貳百圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ若シ其船長船主若シハ其船ノ用達又ハ其各人若シハ一人ノ命令又

ハ利益ノ爲メ此規則ニ背キ或ハ從フコトヲ拒ムキハ每犯罰金五百圓ニ至ルマテ増加スルコトアルヘシ

此規則ニ就テ拂フヘキ費用ヲ辨償セサルモノアルトキハ民事ノ訴訟ヲ以テ之ヲ要求スヘシ

但シ罰金ハ科セサルヘシ

此規則ヲ犯シ停留場ヲ脱去スル者ハ(船又ハ人)罰金ヲ科シ且即時停留場ニ返ラシムヘシ

○第三十号 七月三十一日

本年本月第二十九号布告檢疫停留船規則中正誤

○第三十一号 八月七日

七年七月第八十一号布告証券印稅規則中第二則第一條第二類諸証書中諸品賣買仕切書ノ傍ヘ但書并同則同條第三類諸証書中ヘ追加ス

○第三十二号 八月廿五日

明治十二年六月第二十三号布告虎列刺病豫防假規則別冊ノ通更正候條此旨布告候事

虎列刺病豫防假規則

第一條 醫師ハ虎列刺病ヲ診察スル時ハ成ル可ク速ニ患者所在ノ郡區吏町村吏或ハ警察署ニ通知シ郡區吏町村吏或ハ警察署ハ速ニ之ヲ地方廳ニ届出ヘシ但醫師ノ通知ハ診察ノ後遅クモ二十四時間ヲ過ク可ラス

第二條 地方長官ハ其管内ニ虎列刺病アルノ報告ヲ得ル時ハ先ツ其流行地方ニ豫防方法ヲ諭告シ速ニ之ヲ内務省ニ申報シ且ツ管内一般及ヒ近隣ノ地方廳兵營等ニ報告ス可シ

但地方長官ハ中央衛生會ヨリ附與スル書式ニ照準シ該病ノ性狀ヲ詳記シ時々申報スヘシ

第三條 陸海軍兵營其他官省所轄ノ學校病院製作所等ニ於テ虎列刺病患者アルキハ該主長ハ速ニ該地方廳ニ報知シ爾後ノ景况モ時々報知ス可シ

第四條 内國郵便船其他諸船舶汽車製造所學塾等ニ於テ虎列刺病患者アルキハ速ニ該主長ヨリ最寄警察署或ハ郡區吏町村吏ニ届出ヘシ

第五條 地方長官ハ其病性ノ劇惡ナルヲ認定スルキハ醫師衛生掛警察官吏郡區吏等ヨリ適當ノ人員ヲ撰テ之ニ檢疫委員ヲ命シ此規則ヲ實施セシムヘシ

第六條 病性劇惡ナルキハ地方官ニ於テ時々之ヲ管内ニ告示シ毎土曜日ニハ患者ノ新舊及ヒ其總數治癒死亡ヲ表ニ製シ内務省ニ申報スヘシ

但沿海船舶交通ノ地方廳ヘハ別段通牒シテ互ニ出入ノ船舶ヲ検査シ患者若シハ死者アルキハ相當ノ處分ヲナスヘシ

第七條 避病院ハ成丈ケ人家隔絶ノ場所ニ建設シ其構造ハ極メテ輕易ヲ主トシ輕症重症ノ患者ヲ區別シ且ツ恢復期ノ患者ヲ分隔シ其大小員數ハ適宜斟酌スヘシト雖モ病室ハ四疊ニ一人ヲ置クヲ常トシ多キモ二疊ニ一人ニ過ク可ラス

第八條 避病院ハ黄色ノ布ニ「コレラ」フ三字ヲ黒記シタル標旗ヲ建テ其境界ニハ制止榜ヲ立テ嚴ニ外人ノ出入ヲ絶ツ可シ且ツ該院ニ需用スル一切ノ物品ハ

使了ヲ定メテ之ヲ辨セシメ其使了ハ病室ニ入り又病毒汚染ノ物品ニ觸ルハ、ヲ許サス

但病者ノ近親見舞ノ爲メ避病院ニ入テノヲ願フモノハ其情實ヲ斟酌シテ之ヲ許可シ其在院ノ時間ハ醫員ノ指圖ニ從フ可シ

第九條 檢疫委員ハ避病院ノ病者全快シタル時之ニ全快ノ證書ヲ與ヘ十分ノ消毒法ヲ行ヒタル後退院ヲ許スヘシ

第十條 虎列刺病患者ハ自家ニ在ルモ必ス其室ヲ異ニス可シ其孤獨貧困ニシテ看病人ヲ雇フ能ハサルモノ或ハ家人幼稚老衰ニシテ看護消毒法行届カサルモノ或ハ學舎製造場會社旅店等ニアリテ他ニ親戚交友ノ引取人ナキモノ并ニ其他狹隘不潔ノ地ニ雜居シテ豫防消毒法行届カス病毒ノ傳播ヲ防キ難キ明証アルモノハ必ス避病院ニ入ラシム可シ

但本條ノ患者ニ非サルモ入院ヲ請フモノハ他ニ故障ナケレハ其意ニ任スコトアルヘシ

第十一條 虎列刺病者アル家ハ其病名ヲ大書シテ門戸ニ貼附シ治癒或ハ死亡ノ後ト雖モ一週間ハ不得止事故アルノ外成ヘシ他人ト交通ヲ謝絶スヘシ

第十二條 虎列刺病流行ノ兆候アルキハ地方官ハ管内各所ニ火葬埋葬場及ヒ汚穢物焼却若シハ埋藏ノ場所ヲ定メ置キ決シテ他ノ便所下水芥溜田圃河水等ニ虎列刺病者ノ吐瀉物汚穢物ヲ投棄セシムヘカラス

但吐瀉物汚穢物ヲ埋藏スルキハ相當ノ消毒法ヲ行フ可シ

第十三條 虎列刺病流行ノ勢益々盛ナルキハ地方長官ニ於テ祭禮劇場等人民ノ群集スル事業ヲ差止ムルコアル可シ

第十四條 虎列刺病流行ノ時ニ於テ檢疫委員ハ井泉開闢并ニ芥溜下水溝渠魚市屠場等總テ病毒ノ媒介トナルヘキ物件場所ニ注意シ掃除清潔ノ方法ヲ施行スヘシ

第十五條 虎列刺病者ノ死屍ハ豫メ地方廳ニ於テ定メタル場所ニ於テ速ニ火葬或ハ埋葬スヘシ

但火葬シタル遺骨ハ改葬スルモ妨ケナシト雖モ埋葬ハ深ク之ヲ埋メ決シテ

再ヒ改葬スルヲ許サス

第十六條 虎列刺病者ノ病室船室夜具衣服及ヒ器具等ハ檢疫委員ノ指圖ニ從ヒ必ス十分ノ消毒法ヲ行フヘシ然ラサレハ之ヲ他人ニ用キ又ハ賣買スルヲ許サス尤モ夜具衣服ノ甚シク汚穢シタルモノ及ヒ直ニ吐瀉物ニ汚染シタル疊等ハ之ヲ燒棄スヘシ

但シ極貧ノ者ニハ物品ニヨリ檢疫委員ニ於テ之ヲ買上ケ燒却スベシ其重大ナル物品ハ内務省ニ具狀シテ指揮ヲ請フ可シ

第十七條 虎列刺病者若クハ死者ヲ運搬シ或ハ病者若クハ屍體ニ觸レタル物品ヲ贈與受用スル等ノ事ハ檢疫委員ノ指圖ニ從ヒ十分ノ消毒法ヲ行フノ後ニアラサレハ之ヲ許サス

第十八條 虎列刺病者若クハ死者ヲ運搬スルコトハ各地方官ニ於テ相當ノ手續ヲ定メ黃色ノ小旗ニ「コレラ」ノ三字ヲ黒記シテ之ヲ掲ケ世間公用ノ運送器ヲ用フルヲ許サス且ツ其運送ハ成ルヘク水路ヲ以テスルヲ良シトス然ラサレハ捷

近ニシテ人行ノ稀ナル所ヲ撰フヘシ又排泄物或ハ病毒ニ汚染シタル器具衣服ヲ消毒場或ハ燒却場ニ送ルモ同様ノ手續ニ隨フヘシ

但急劇ノ際止ムヲ得ス世間公用ノ運送器ヲ用キタルキハ其布帛ノ類ハ悉ク燒棄シ其他ハ十分ノ消毒法ヲ行フヘシ

第十九條 虎列刺病患者若クハ死屍運搬ノ舟車駕釣臺等ハ毎回必ス十分ノ消毒法ヲ行ヒ品ニ寄り流行終熄ノ後之ヲ燒棄スヘシ

第二十條 陸海軍其他諸官省所屬ノモノ、治療豫防ハ素ヨリ該官省ニ於テ相當ノ處置ヲ爲スヘシト雖モ臨時府縣廳ト協議シ自他人民豫防ノ爲メ便宜處分スルコトアルヘシ

第二十一條 虎列刺病流行ノ際該地方廳ニ於テハ成ルヘク各種消毒藥ノ價ヲ一定シ一般ニ購求シ易カラシムルノ方法ヲ設ク可シ

第二十二條 醫師診察ノ上其虎列刺病タルヲ知リテ其通知ヲ怠リ二十四時間ヲ過クルモノハ三拾圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ其故意ニ隱蔽シタル者ハ百圓以内

ノ罰金ヲ科シ并ニ一時醫業免狀ヲ取上ケ百日以内醫業ヲ停止スルコトアルヘシ
●第三十三号 八月廿五日

神奈川縣下相州長浦灣長崎縣下長崎港外ニ於テ本年七月二十九号布告檢疫停船
規則施行ノ處自今停止ス

○第三十四号 九月十一日

七年十一月十一日 第三百二十号布告地所名稱區別中官有地第二種第四種區入費ヲ賦スルト
アルチ地方稅ヲ賦セサルトシ第三種但書借地料及ヒ區入費ヲ賦スヘシトアルチ
借地料ヲ納メシムヘシトシ其他區入費トアルチ都テ地方稅ト改正ス

○第三十五号 九月十二日

一貿易壹圓銀(量目七匁一分七厘六毛性合銀九銅一)ノ儀今後稅關ノ諸稅及其他
凡ソ洋銀ヲ以テ取引スヘキ諸勘定ノ拂方ヲナス爲メ之ヲ差出スルハ諸官廳ニ
於テハ之ヲ洋銀ト並價ニテ受領スヘシ
一本月十九日以後ハ人民ニ於テ凡ソ負債其他ノ拂方洋銀ヲ以テ履行スヘシト結

約シタル所ノ金高ヲ拂フ爲メ右壹圓銀ヲ差出スルハ之ヲ洋銀ト並價ニテ受領
スヘシ

右布告候事

●第三十六号 九月十五日

六年七月第二百五十五号布告鎮臺條例廢止ス

○第三十七号 九月廿二日

東京并大坂株式取引所ニ於テ當分ノ内金銀貨幣取引差許候條此旨布告候事

○第三十八号 同日

本年二月第八号布告ニ據リ設立シタル橫濱洋銀取引所ノ儀自今橫濱取引所ト改稱
シ當分ノ内金銀貨幣取引差許候條此旨布告候事

○第三十九号 九月廿四日

本年八月第三十一号ヲ以テ証券印稅規則中追加銀行當座預リ金小切手ノ稅印見本
ヲ示ス

○第四十号

九月廿九日

明治五年八月第二十四号ヲ以テ布告候學制相廢シ更ニ教育令別冊ノ通相定候條
此旨布告候事

教育令

- 第一條 全國ノ教育事務ハ文部卿之ヲ統攝ス故ニ學校幼稚園書籍館等ハ公立私立ノ別ナク皆文部卿ノ監督内ニアルヘシ
- 第二條 學校ハ小學校中學校大學校師範學校專門學校其他各種ノ學校トス
- 第三條 小學校ハ普通ノ教育ヲ兒童ニ授クル所ニシテ其學科ヲ讀書習字算術地理歷史修身等ノ初歩トス土地ノ情況ニ隨ヒテ野畫唱歌體操等ヲ加ヘ又物理生理博物等ノ大意ヲ加フ殊ニ女子ノ爲ニハ裁縫等ノ科ヲ設クヘシ
- 第四條 中學校ハ高等ナル普通學科ヲ授クル所トス
- 第五條 大學校ハ法學理學醫學文學等ノ專門諸科ヲ授クル所トス
- 第六條 師範學校ハ教員ヲ養成スル所トス

第七條 專門學校ハ專門一科ノ學術ヲ授クル所トス

第八條 以上掲クル所何ノ學校ヲ論セス各人皆之ヲ設置スルコトヲ得ヘシ

第九條 各地方ニ於テハ每町村或ハ數町村聯合シテ公立小學校ヲ設置スヘシ

但町村人民ノ公益タルヘキ私立小學校アルトキハ別ニ公立小學校ヲ設置セサルモ妨ケナシ

第十條 町村内ノ學校事務ヲ幹理セシメンカ爲ニ學務委員ヲ置クヘシ

但人員ノ多寡給料ノ有無ハ其町村ノ適宜タルヘシ

第十一條 學務委員ハ其町村人民ノ選舉タルヘシ

第十二條 學務委員ハ府知事縣令ノ監督ニ屬シ兒童ノ就學學校ノ設置保護等ノ事ヲ掌ルヘシ

第十三條 凡兒童六年ヨリ十四年ニ至ル八箇年ヲ以テ學齡トス

第十四條 凡兒童學齡間少シトモ十六箇月ハ普通教育ヲ受クヘシ

第十五條 學齡兒童ヲ就學セシムルハ父母及後見人等ノ責任タルヘシ

明治十二年

○二百四十八

但事故アリテ就學セシメサルモノハ其事由ヲ學務委員ニ陳述スヘシ

第十六條 公立小學校ニ於テハ八箇年ヲ以テ學期トス土地ノ便宜ニ因リテハ此學期ヲ縮ムルコトヲ得ヘシト雖モ四箇年ヨリ短クスヘカラス此四箇年間ハ每年授業スルコト必四箇月以上タルヘシ

第十七條 學校ニ入ラスト雖モ別ニ普通教育ヲ受クルノ途アルモノハ就學ト做スヘシ

第十八條 學校ヲ設置スルノ資力ニ乏シキ地方ニ於テハ教員巡回ノ方法ヲ設ケテ兒童ヲ教授セシムルコトヲ得ヘシ

第十九條 學校ニ公立私立ノ別アリ地方稅若クハ町村ノ公費ヲ以テ設置セルモノヨリ公立學校トシ一人若クハ數人ノ私費ヲ以テ設置セルモノヲ私立學校トス第二十條 公立學校ヲ設置或ハ廢止セント欲スルモノハ府知事縣令ノ認可ヲ經

ヘシ
第二十一條 私立學校ヲ設置或ハ廢止スルモノハ府知事縣令ニ開申スヘシ

第二十二條 公立學校ノ教則ハ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第二十三條 私立學校ノ教則ハ府知事縣令ニ開申スヘシ

第二十四條 公立學校ノ費用府縣會ノ議定ニ係レルモノハ地方稅ヨリ支辨シ町村人民ノ協議ニ係レルモノハ町村費ヨリ支辨スヘシ

第二十五條 町村費ヲ以テ設置保護スル學校ニ於テ補助ヲ地方稅ニ要スルトキハ府縣會ノ議定ヲ經テ之ヲ施行スルコトヲ得ヘシ

第二十六條 公立學校ノ土地ハ免稅タルヘシ

第二十七條 凡學事ニ供スル寄附金等ハ其寄附人ヨリ指定セシ目途ノ外ニ支消スルコトヲ得ス

第二十八條 公立小學校ヲ補助センカ爲ニ文部卿ヨリ毎年補助金ヲ各府縣ニ配付スヘシ

第二十九條 府知事縣令ハ文部卿ヨリ領取セシ補助金ヲ各公立小學校ニ配付スヘシ

第二十條 前年中授業四箇月ニ滿タカリシ小學校ニハ補助金ヲ配付セサルヘシ
第二十一條 私立小學校タリト雖モ府知事縣令ニ於テ其町村人民ノ公益タルコトヲ認ムルトキハ補助金ヲ配付スルコトヲ得ヘシ

第三十二條 教員巡回ノ方法ヲ以テ教授セシムルコト一箇年四箇月以上ニ至ルノ町村ニハ補助金ヲ配付スルコトヲ得ヘシ

第三十三條 各府縣ニ於テハ便宜ニ隨ヒテ公立師範學校ヲ設置スヘシ

第三十四條 公立師範學校ニ於テハ本校卒業ノ生徒ニ試験ノ後卒業證書ヲ與フヘシ

第三十五條 公立師範學校ハ本校ニ入學セサルモノト雖モ卒業證書ヲ請フモノアラハ其學業ヲ試験シ合格ノモノニハ卒業證書ヲ與フヘシ

第三十六條 公立師範學校ノ整備ヲ要センカ爲ニ文部卿ヨリ補助金ヲ各府縣ニ配付スルコトアルヘシ

第三十七條 教員ハ男女ノ別ナク年齢十八年以上タルヘシ

第二十八條 公立小學校教員ハ師範學校ノ卒業證書ヲ得タルモノトス

但師範學校ノ卒業證書ヲ得スト雖モ教員ニ相應セル學力ヲ有スルモノハ教員タルモ妨ケナシ

第三十九條 文部卿ハ時々吏員ヲ府縣ニ發遣シ學事ノ實況ヲ巡視セシムヘシ

第四十條 公私學校ニ於テハ文部卿ヨリ發遣セル吏員ノ巡視ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十一條 府知事縣令ハ管内學事ノ實狀ヲ記載シテ毎年文部卿ニ申報スヘシ

第四十二條 凡學校ニ於テハ男女教場ヲ同クスルコトヲ得ス

但小學校ニ於テハ男女教場ヲ同クスルモ妨ケナシ

第四十三條 凡學校ニ於テ授業料ヲ收ムルト收メサルトハ其便宜ニ任スヘシ

第四十四條 凡兒童ハ種痘或ハ天然痘ヲ歴タルモノニ非サレハ入學スルコトヲ

得ス

第四十五條 傳染病ニ罹ルモノハ學校ニ出入スルコトヲ得ス

第四十六條 凡學校ニ於テハ生徒ニ體罰歐チ或ハ縛スルノ類ヲ加フヘカラス

第四十七條 生徒試験ノトキハ父母或ハ後見人等其學校ニ來觀スルコトヲ得ヘシ

○第四十一号 十月一日

十一月^{十一} 第二十五号布告ハ但書ヲ追加ス

○第四十二号 十月八日

九年^六 第八十六号布告改定律例第三百十八條改正後拷訊ハ無用ニ屬スルニ付右ニ關スル法令ハ總テ刪除ス

○第四十三号 十月十日

本年^八 第三十一号ヲ以テ布告候證券印稅規則追加中銀行當座預リ金小切手ハ十月一日以後都テ稅印可相受ノ處來ル十二年六月三十日限り證券印紙交用候トモ不苦候條此旨布告候事

○第四十四号 十月十一日

郵便切手壹錢ハ代赭色貳錢ハ桔梗色ニ改正ス

○第四十五号 十月十三日

本年一月露西亞國聖彼得爾堡ニ於テ萬國電信盟約ニ加入シ別冊條約畫調印交換相濟候條此旨布告候事 (別冊略ス)

○第四十六号 十月廿七日

徵兵令別冊ノ通改正候條此旨布告候事

但徵兵令ニ關スル從前ノ布告達及ヒ指令ハ渾テ廢止トス

徵兵令

第一章 徵兵編制

第一條 徵兵ハ全國ノ男子ヲ徵集シ以テ兵役ニ充ル者ヲ令陸軍 太別シテ四

ト爲ス常備軍豫備軍後備軍國民軍是ナリ又其兵丁ノ身材ニ從ヒ步騎砲工等ノ

兵種ニ區別ス

但海軍徵兵ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第二條 常備軍ハ男子年二十歳ニ至ル者ヲ各軍管下ノ國郡ヨリ徵集シ其當籤者

キ以テ之ヲ編制シ三ケ年ノ役ニ服セシメ所管鎭臺ニ備フル者ナリ

第一項 殊ニ技藝ニ熟スル者平時ハ服役未タ終ラスト雖モ詮議ノ且假ニ歸郷ヲ許スヘシ

第二項 強壯ニシテ技藝ニ熟シ行狀正シキ者ハ奮營ハケ身ヲシテ近衛兵ニ拔擢シ更ニ三ケ年ノ役ニ服セシメ役終ルノ後豫備軍ニ編入シニケ年六ケ月ノ後後備軍ニ編入ス

但近衛兵編制ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第三項 上下士官ト爲ノコトヲ志願スル者ハ檢査格例ニ照シ士官學校又ハ教導團ニ入ラシム

第四項 技藝ニ熟シ且才氣アル者ハ之ヲ拔擢シテ下士ニ任ス

第五項 輜重輸卒看病卒并ニ職工ハ各其志願者ヲ徵募スト雖モ若シ不足スルトキハ壯丁ノ身幹定尺ニ滿タヌ又ハ銃器ヲ執ルニ適應ヒサル者或ハ合格ノ者ト雖モ各自ノ職業ニ依リ便宜ヲ以テ諸兵ト同シク徵集シ該役ニ服セシムルコト

ルヘシ

第一項 輜重輸卒トシテ徵集スル者ハ六ケ月間常備軍役ニ服セシメ役終レハ豫備軍ニ編入シ五年六ケ月ノ後更ニ後備軍ニ編入ス

第二項 看病卒并ニ職工トシテ徵集スル者ハ服役諸兵ト異ナルコトナシ

第四條 常備軍在營中ハ定額ノ日給ヲ與フ其他食料服類共官給タルヘシ

第五條 豫備軍ハ常備軍三ケ年ノ役ヲ終リシ者ヲ以テ之ヲ編制シ更ニ三ケ年ノ役ニ服セシメ常ニ家居シテ産業ヲ營マシム而シテ戰時或ハ非常ノ事故アル時ニ當リテハ直ニ之ヲ召集シ常備軍ニ加ヘ其員ヲ充實シ又ハ別ニ隊伍ニ編制シ從軍セシムル者ナリ故ニ毎歲一ニ屯營ニ召集シ其技藝ヲ復習セシム

第六條 後備軍ハ豫備軍三ケ年ノ役ヲ終リシ者ヲ以テ之ヲ編制シ更ニ四ケ年ノ役ニ服セシメ豫備軍ニ次テ之ヲ召集スル者ナリ故ニ平時ニ於テハ毎歲一度便宜ノ地ニ召集シ其技藝ヲ復習セシム

第七條 兵役期限己ニ滿ル者ト雖モ戰時ハ勿論非常ノ事故アル時ハ其期限ヲ延

スナアルヘシ

第八條 國民軍ハ全國ノ男子十七歳ヨリ四十歳迄ノ人員ヲ兵籍ニ載セ置キ全國大衆ノ役アルニ當リ時機ニ從ヒ隊伍ニ編制シ以テ守衛ニ充ル者ナリ

第二章 徵兵區域

第九條 凡全國ヲ別ツテ七大徵兵區トシ各軍管ノ區域ニ從フ者之ヲ軍管徵兵區トス軍管ニ包轄スル師管ノ區域ニ從フ者之ヲ師管徵兵區トシ師管ニ包轄スル旅管ノ區域ニ從フ者之ヲ旅管徵兵區トシ旅管ニ包轄スル聯隊區域ニ從フ者之ヲ聯隊徵兵區トシ聯隊區域ニ包轄スル大隊區域ニ從フ者之ヲ大隊徵兵區トシ大隊區域ニ包轄スル中隊區域ニ從フ者之ヲ中隊徵兵區トス

但旅管以下ノ徵兵區ハ現今未タ之ヲ設置セス故ニ姑ク使府縣ノ管地ニ從ヒ之ヲ使府縣徵兵區トス

第十條 使府縣徵兵區ハ一使府縣ヲ一徵兵區ト爲スト雖モ其管地兩師管ニ跨ル者ハ每個管ニ一徵兵區ヲ設置スル者トス

第十一條 第七軍管ノ徵兵ハ未タ全部ニ行ハサルヲ以テ姑ク之ヲ第二軍管ノ管轄ニ屬ス

第三章 徵兵官員及其職掌

第十二條 徵兵使

陸軍佐官一人之ニ任ス使府縣ニ出張シ使府縣徵兵事務長ト議シ徵兵ノ事務ヲ掌ル

但時宜ニ由テハ副使ヲ遣シ代理セシム

第十三條 徵兵副使

陸軍尉官ヲ以テ之ニ任ス人員ハ概テ一師管徵兵區ニ二人或ハ三人トス正使ヲ佐ケ使府縣徵兵事務官及ヒ徵兵副醫官ト共ニ徵兵検査所ヲ巡行シ徵兵検査抽籤等ノ事務ヲ掌ル

第十四條 徵兵醫官

陸軍々醫一人之ニ任ス徵兵使ニ從ヒ兵丁ノ身材骨格兵役ニ適スルヤ否ヲ検査

スル事ヲ掌ル

第十五條 徵兵副醫官

陸軍々醫副以下試補以上ヲ以テ之ニ任ス人員ハ概テ一師管徵兵區ニ三人或ハ四人トシ徵兵副使ト共ニ徵兵検査所ヲ巡行ス職掌徵兵醫官ニ同シ

第十六條 徵兵事務官

後備軍使府縣駐在官一人之ニ任ス使府縣徵兵事務官ト共ニ郡區ヲ巡行シ徵兵下検査ノ事ヲ掌リ又徵兵署ニ出頭シ同署ノ事務ヲ補助ス

第十七條 徵兵書記

陸軍下士或ハ軍屬十等以下十七等迄ノ者ヲ以テ之ニ任ス人員ハ二人或ハ三人トス徵兵使ノ諸記録ヲ掌ル

第十八條 使府縣徵兵事務長

地方長官或ハ書記官ノ内一人之ニ任ス管内徵兵ノ事務ヲ掌ル

第十九條 使府縣徵兵事務官

使府縣屬官ヲ以テ之ニ任ス人員ハ概テ徵兵副使ノ數ニ準ス徵兵副使ト共ニ徵兵検査所ヲ巡行シ使府縣徵兵事務長ノ職掌ヲ補助シ又徵兵事務官ト共ニ郡區ヲ巡行シ徵兵下検査ノ事ヲ掌ル

第二十條 郡區徵兵事務官

郡區長ヲ以テ之ニ任ス人員ハ一郡區ニ一人トス徵兵ノ事ニ付キ公文ヲ布達シ民情ヲ上申シ又其郡區内徵兵取調ノ事ヲ掌ル

但郡區長己ムヲ得サル事故アルキハ郡區書記ヲ以テ代理セシム

第二十一條 地方徵兵醫員

地方長官ノ撰ヲ以テ之ヲ命ス人員ハ概テ徵兵八十名乃至百名ニ一人トス徵兵身體ノ下検査ヲナシ又徵兵醫官ノ指揮ニ從ヒ検査ノ事件ヲ記録ス

第二十二條 筆生

地方長官ノ撰ヲ以テ之ヲ命ス人員ハ概テ一検査所ニ二人トス検査抽籤等ノ件々ヲ記録シ又下検査所筆記ノ事ヲ掌ル

第二十三條 徵兵使々府縣徵兵事務長及ヒ徵兵醫官ハ使府縣徵兵署ニ出頭シ徵兵副使徵兵副醫官及ヒ使府縣徵兵事務官等ハ分派シテ各徵兵検査所ヲ巡行スル者トス

第二十四條 徵兵使巡行ハ二月十五日ヨリ始メ第二章中ニ掲クル所ノ陸軍官員一行トナリ使府縣ニ出張シ地方ノ諸官ト合議シ便宜ノ地ニ於テ徵兵署ヲ開設シ總テ徵兵ニ關スル事務ヲ管理シ四月十日ヲ以テ復命スル者トス

第二十五條 徵兵使ハ使府縣ヨリ鎮臺へ出シタル徵集名簿ヲ點檢シ其使府縣ノ徵兵年齡相當ノ人員ニ應ジ本年徵集スヘキ常備補充ノ人員ヲ配當シ又除役免役等ノ箇條書ヲ調査ス

第二十六條 徵兵諸官ハ本年ノ徵兵事務竣レハ悉ク其職ヲ解ク者トス

第四章 除役免役及ヒ徵集猶豫

第二十七條 左ニ掲ル者ハ終身兵役ヲ除ス

第一項 癡疾又ハ不具等ニシテ陸軍醫官検査規則ニ照シ兵役ニ堪ユヘカラス

サル徵候アル者

第二項 懲役一年以上及ヒ國事犯禁獄一年以上實決ノ刑ニ處セラレタル者

第二十八條 左ニ掲ル者ハ國民軍ノ外兵役ヲ免ス

第一項 戸主

但徵兵年齡以前ニ分家シ又ハ新タニ分家シタル女戸主ニ入婿シ或ハ絶家ヲ再興シ及ヒ年齡五十歳未滿ノ者隱居シ養子又ハ相續人ニシテ其跡ヲ續キタル戸主ハ此限ニ非ス

第二項 獨子 嗣子 承祖子 獨孫ノ孫

但姉妹ノ有無ヲ問ハス

第三項 年齡五十歳以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

但徵兵年齡以後ノ嗣子或ハ承祖ノ孫ヲ分家シ或ハ五十歳未滿ノ者ノ養子(本家ノ故ヲ以テ己ム)トシ又ハ絶家ヲ再興シ或ハ新タニ分家シタル女戸主ニ入婿シ其他ノ子孫ヲ以テ徵兵年齡以前ニ更ニ定

メタル嗣子或ハ承祖ノ孫ハ此限ニ非ス

第四項 年齢五十歳以上ニシテ嗣子ナキ者ノ養子嗣子或ハ相續人

但隱居後別家シテ特ニ定メタル嗣子或ハ相續人ハ此限ニ非ス

第五項 年齢五十歳未満ト雖モ癘疾又ハ不具等ニシテ産業ヲ營ムト能ハサル

者ノ嗣子承祖ノ孫及ヒ養子嗣子或ハ相續人

第六項 官吏判任以上及ヒ教導職試補以上并ニ戸長

第七項 府縣會ノ議長副議長及ヒ議員

第八項 公立學校教員及ヒ文部省所轄并ニ其他省使ニ屬スル官立學校教員

第三十九條 左ニ掲ル者ハ平時ニ於テ兵役ヲ免ス

第一項 年齢五十歳未満ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

但徵兵年齢以後ノ嗣子或ハ承祖ノ孫ヲ分家シ或ハ五十歳未満ノ者

ノ養子（本家ノ故ヲ以テ己ム）トシ又ハ絶家ヲ再興シ或ハ新タニ分

家シタル女戸主ニ入婿シ其他ノ子孫ヲ以テ徵兵年齢以前ニ更ニ定

メタル嗣子或ハ承祖ノ孫ハ此限ニ非ス

第二項 陸海軍生徒并ニ海軍兵器局及ヒ造船所定雇職工

第三項 陸海軍常備在役中死没又ハ公務ニ因リ疾病或ハ傷痕ヲ受ケ退隱セシ

者ノ兄或ハ弟一人

但豫備軍又ハ後備軍服役中公務ニ起因シタル疾病死没モ亦此例ニ

準ス

第四項 醫術開業免狀ヲ所持スル者

第五項 公立使府縣ノ設立ニ係ル以下師範學校ニ於テ卒業ノ者

第六項 公立中學校及ヒ公立專門學校ニ於テ卒業ノ者

第七項 文部省所轄官立學校及ヒ其他省使ニ屬スル官立學校ニ於テ卒業ノ者

但官立師範學校附屬小學校ノ生徒ハ此限ニ非ス

第八項 外國ニ留學シテ二ケ年以上ノ學科ヲ終リタル證書ヲ所持スル者

第九項 海員試験免狀規則ニ遵ヒ船長運轉手及ヒ機關手ノ免狀ヲ所持スル者

第十項 海員雇入雇止規則ニ遵ヒ二年以上海上ニ在テ水火夫ノ業ヲ執リタル
トテ証明スル者

第三十條 左ニ掲ル者ハ平時ニ於テ一ケ年ヲ限リ徵集ヲ猶豫スヘシ

第一項 海軍兵員ト爲ランコト志願スル者

第二項 兄弟同時ニ徵兵ニ當ル者偶數ハ其半數奇數ハ其寡數例ヘハ三人ハ一
皆之ニ
倣フ

第三項 陸海軍常備在役中ノ下士卒ノ兄或ハ弟一人

第四項 陸海軍生徒ノ兄或ハ弟一人

但本條第二項乃至第四項ノ場合ニ於テ其兄或ハ弟ノ中一人不合格
ナルキハ此例ニアラス

第五項 父及ヒ兄或ハ父ハクシテ兄失踪又ハ癡疾不具等ニテ產業ヲ營ムコト能
ハズ本人ヲ要セサレハ一家ノ生計ヲ失フ者

第六項 文部省所轄并ニ其他省使ニ屬スル官立學校及ヒ公立師範學校ニ於テ

修業一ケ年ノ課程ヲ卒リタル以上ノ生徒

第七項 公立中學校及ヒ公立專門學校ニ於テ修業三ケ年ノ課程ヲ卒リタル以
上ノ生徒

第八項 學術修業又ハ商用等ニテ外國ヘ寄留スル者

第九項 身幹未ダ定尺ニ滿タズ又ハ疾病中或ハ病後ノ故ヲ以テ仍ホ未ダ勞役
ニ堪ユルコト能ハサル者

第十項 刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者

第三十一條 官省院使府縣準官吏御用掛御雇等ハ之ヲ免役セスト雖モ餘人ヲ以
テ代フヘカラサル事務ヲ奉スル者ノ如キハ特ニ太政官ニ具狀シテ裁
決ヲ請フヘシ

但諸省院使府縣雇入外國人ニ附屬シ官費ヲ以テ技藝傳習中ノ者亦
本條ニ準スヘシ

第三十二條 第二十八條第一項乃至第六項第八項ニ當ル者並ニ第二十九條第一

項第二項第四項第九項第三十一條ニ當ル者常備年期ノ第三年検査時限ニ至ル迄ニ其名稱ヲ罷メタル者ハ更ニ徵集ニ應セシムルモノトス

第三十三條 第二十八條第四項第六項第八項第二十九條第四項乃至第十項及ヒ第三十條第六項第七項ニ當ル者ト雖モ第六十一條ニ示シタル徵兵各自届出期限ヲ過キ即チ九月十六日以後ニ係ル者ハ免役又ハ猶豫ノ限ニ非ス

第三十四條 第三十條ニ當リ一ケ年間ヲ限リ徵集ヲ猶豫スヘキ者及ヒ第四十一條第四十二條第五十六條但書ニ當リ翌年廻シニスヘキ者次年ニ至リ猶豫條ニ當ルキハ又之ヲ猶豫若シハ翌年廻シニスヘシ而シテ終ニ常備年期ノ第三年検査時限ニ至リ猶豫條ニ當ルキハ平時ニ於テ之ヲ免役スヘシ

第三十五條 常備年期間第二十八條第一項乃至第六項第八項并ニ第二十九條第一項第二項第四項第九項第三十條第三十一條第四十一條第四十二條第五十六條ノ但書ニ交互該當スルモノハ第三十四條ノ例ニ準ス

但第三年ノ検査時限ニ於テ第二十八條第一項乃至第六項第八項ニ該ル者ハ

國民軍ノ外兵役ヲ免ス

第三十六條 平時免役ニ屬シ第四十九條及ヒ第五十一條但書ニ當ル者ハ第一豫備徵兵ト爲シ第二十九條第三十四條ニ當ル者ハ第二豫備徵兵ト爲シ各年齢三十歳迄ハ戰時或ハ非常ノ事故アル時ニ當リ後備軍ヲ召集シ尙兵員ヲ要スル時ハ其順序ニ從ヒ臨時召集シテ隊伍ニ編制シ或ハ輜重運輸ノ役ニ供スルコトアルヘシ

第五章 徵兵検査

第三十七條 徵兵検査定日ハ前以テ徵兵使ヨリ使府縣へ通報シ日割チ以テ一日幾人ト定メ戸長之ヲ引纏メ出ヘシ

第三十八條 徵兵検査ノ時節ニ至レハ使府縣廳ヨリ左式ノ野紙ヲ戸長ニ渡シ戸長ハ検査ヲ受クヘキ者ノ戸籍ニ基キ朱書ニ示シタル如ク本人ノ姓名産國住所誕生ノ年月日及ヒ戸主タル者ノ名并ニ氏神宗門其他同戸籍ノ父母祖父母兄弟妻子等ヲ記載シ之ヲ人別表トシ徵兵検査ノ時差出スヘシ

人別表

明治 年 徵 兵 人 別									
身幹 尺度	兵種	番號	族 職業	父	母	祖父	祖母	兄弟	使府(縣) 國郡區町村 住居及職業
			某	何年何ヶ月	氏神	宗門	同	同	何
						何宗何寺			

表			
子	妻	妹	姉
考			

産國ト現今ノ管轄使府縣ノ異ナル者ハ表首國郡區町村産ト記スルノ上ニ其産國ノ使府縣ヲ加ヘ若又寄留地ノ徵集ニ應スル者ハ國郡區町村住ト記スルノ代リニ其寄留地使府縣及ヒ何郡區町村寄留ト書スヘシ
 族職業ノ區畫ニハ華士族何(平民何)ト記ス但女ハ戶主ニ非サレハ族職業ヲ記スルニ及ハス
 父母亡スル者ハ名ノ下ニ亡ト記シ年ノ區畫ニハ〇ヲ記スヘシ祖父母亡スル者亦之ニ同シ
 身幹尺度ノ區畫ニハ檢査ノ後徵兵署ニ於テ其身幹尺度ヲ記註スヘシ
 兵種番號ノ區畫ニハ抽籤ノ後徵兵署ニ於テ其兵種番號ヲ記註スヘシ
 備考ノ區畫ニハ徵兵署及ヒ後備軍本部ニ於テ須要ノ件々ヲ記註スヘシ

ノ重病又ハ一家ノ安危ニ係リ一時己ムヲ得サル事故アル者其事實ヲ詳記シ兵長之ニ証印シ郡區長ヲ經テ檢査所ヘ願出ル時ハ前條ニ準シ之ヲ處分スヘシ

第四十三條 徵兵署ニ隔リタル郡區ハ徵兵副使徵兵副醫官及ヒ使府縣徵兵事務官一行トナリ組ヲ分テ巡回セヨメ相應ノ場所ニ於テ徵兵檢査所ヲ設ク其式本署ニ異ナルコトナシ

第六章 抽籤

第四十四條 抽籤ハ徵兵ノ檢査終リタル後人別表及ヒ檢査表ニ案シ兵役ニ適スヘキ人員ニ應シ徵員配當表ニ基キ兵種ヲ區別シ使府縣徵兵署ニ於テ常備抽籤ヲ行フヘシ

第四十五條 抽籤ハ各自ノ之ヲ行ハシムル者ナリト雖モ各自ノ便宜ニ依リ一町村或ハ數町村又ハ一郡區内ノ人撰ヲ以テ一名乃至三名ヲ限リ徵兵各自ノ抽籤總代ト爲シ之ヲ抽カシムルモ妨ケナシ

第四十六條 常備缺員ヲ補フ爲補充兵トシテ一分年ヲ期トシテ常備徵員ニ亞キ之

ヲ徵集スル者トス

第四十七條 抽籤施行ニ先タテ該使府縣籤丁ノ總員及ヒ各兵種常備補充ノ徵員ヲ記載シ之ヲ抽籤所ニ揭示スヘシ

第四十八條 抽籤ノ法ハ籤丁ヲ調ヘ其人員ニ應シ左式ノ籤札ニ番號ヲ記シ籤箱ニ納レ籤簿掛ノ側ニ置キ籤丁名簿ノ順序ニ從ヒ其姓名ヲ呼ビ之ヲ抽カシメ籤簿掛ハ抽籤ノ正否ヲ監シ抽キ舉クル所ノ番號ヲ高聲ニ呼ハシメ其籤札ヲ受取リ籤簿ニ姓名番號ヲ記シ籤札ハ本人ニ返付ス

兵種

第何番

籤札ハ厚紙ヲ凡ソ方三寸ニ切り之ヲ四ツ折ニシテ中分ヲ粘ル

第四十九條 抽籤ノ法例ヘハ籤丁五百人ナルキハ第壹番ヨリ第五百番迄ノ籤ヲ納レ本年常備徵員貳百人補充徵員壹百人ナレハ第壹番ヨリ第貳百番迄ノ籤ヲ抽キシ者ヲ常備トシ第貳百壹番ヨリ第貳百番迄ノ籤ヲ抽キシ者ヲ補充トシ其餘ヲ以テ落籤トス

但落籤ニ當ル者ハ平時ニ於テ兵役ヲ免ス

第五十條 抽籤全ク終ルノ後籤簿及ヒ人別表ニ依リ左ノ番號割符ヲ作り籤簿ニ引合セ割印ヲ爲シ本人ヲ呼出シ籤札ヲ出サシメ相違ナキ者ハ籤札ト番號割符ト引替渡スヘシ

番號割符

明 治 兵 年		健 府 縣 兩 郡 區 町 村 住 族 及 ヒ 職 業 戸 主 名 何 男 兄 弟 伯 叔 甥 (附 籍)
年	治	
鎮	何	
番 號	兵 種	
	何	某

日	月
臺	
常備軍(補充兵)編入候事	

第 管 第
何 後 本
師 備 部 印

豫備軍ニ編入スル者ハ番號割符ノ裏面ニ

年月日

豫備軍編入候事

後備軍ニ編入スル者ハ

明治十二年

〇二百六十二

之軍管第
本後何
印部備部

年月日

後備軍編入候事

近衛兵ニ編入スル者ハ

年月日

近衛兵編入候事

之軍管第
本後何
印部備部

補充兵ヨリ常備軍ニ編入スル者ハ

年月日

常備軍編入候事

之軍管第
本後何
印部備部

第五十一條 補充兵ヲ命セラレタル者ハ常ニ家居シテ産業ヲ營マシメ常備缺員ノ節ハ其鎮臺ヨリ籤順ニ布達シ入營セシムヘシ

但本年常備兵入營期限初日即チ四月廿日ヨリ起算シ滿一ケ年ニ至リ終ニ入

營ヲ命セサル者ハ平時ニ於テ之ヲ免役スヘシ

第五十二條 補充兵ヨリ常備軍ニ編入セシ者ハ本人入營ノ月日ニ拘ハラス總テ

本年ノ常備兵入營期限初日ヨリ起算シ三ケ年ノ期ヲ保タシムヘシ

第五十三條 徵兵使ハ使府縣ニ於テ徵兵事務全ク竣ルノ後徵兵各自ノ人別表及

ヒ檢査表ヲ點檢シ兵種毎ニ常備補充ヲ區別シ人別表ハ兵卒明細名簿ト題シ檢

査表ハ兵卒檢査名簿ト題シ籤簿ト共ニ陸軍省并ニ鎮臺ヘ差出スヘシ

第五十四條 徵集名簿并ニ免役名簿其他種々ノ願書及ヒ届書郡區長戸長ノ取調

証書總テ徵兵ニ關スル書類ハ使府縣毎ニ取纏メ前條諸名簿ト共ニ陸軍省并ニ

鎮臺ヘ差出スヘシ

第七章 徵兵雜則

第五十五條 常備籤ヲ抽キタル徵兵ハ四月廿日ヨリ五月一日迄ニ入營スヘシ其

營所迄ハ使府縣毎ニ最寄チ分チ戸長之ヲ引纏メ出ヘシ

但入營迄ノ費用ハ總テ定則ニ照準シ大藏省ヨリ支給スヘシ

明治十二年

〇二百六十三

第五十六條 疾病或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ其事實ヲ詳記シ其疾病ニ罹ル者ハ最寄地方醫師ノ診斷書ヲ添ヘ郡區長ノ奧書証印ヲ以テ速ニ其銃臺或ハ營所ヘ届出ヘシ

但其年十月一日ニ至ルモ事故猶止マサル者ハ之ヲ入營延期翌年廻シノ者ト爲シ翌年徵募ノ期ニ於テ更ニ檢査ヲ遂ケ尋常ノ徵兵ニ先タナ入營セシムヘシ

第五十七條 常備軍服役在營中身元轉居スルキハ其親族ノ者ヨリ直ニ本人ニ通報シ本人ヨリ自己所屬ノ下士ヘ届出ヘシ

第五十八條 常備軍在營中病氣ノ者ハ軍醫ノ診斷ヲ以テ病院ニ入レ治療セシメ其上ニテ兵役ニ堪ヘ難キ者ハ兵籍ヲ除スヘシ尤歸郷迄ノ旅費ハ定則ニ照準シ陸軍省ヨリ支給スヘシ

第五十九條 常備軍在營中父母ノ重病或ハ非常ノ事故アル者一時己ムヲ得スシテ歸省ヲ願フキハ其親族ノ者ヨリ郡區長ノ奧書証印ヲ以テ銃臺或ハ營所ヘ願

出ルニ於テハ詮議ノ上往復ヲ除クノ外二週日以内ノ歸省ヲ許ス尤旅費ハ自辨タルヘシ

但入營後六ヶ月未滿ニシテ成業ニ至ラス或ハ實地演習又ハ臨時觀兵等ノ舉アルキハ本條ノ限ニ非ス

第六十條 全國ノ男子齡十七歳ニ至レハ國民軍籍ニ入ルヘキヲ以テ毎年一月ヨリ十二月迄ニ十七歳ト爲ル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ其戸主(本人戸主ナレ)ヨリ本人ノ姓名族籍住所誕生ノ年月日及ヒ職業ヲ記載シ戸長(ハ即チ自身)ヘ届出ヘシ戸長之ヲ取調ヘ同月二十五日迄ニ郡區長ヘ差出シ郡區長點檢ノ上十月十日迄ニ使府縣廳ヘ差出シ國民軍名簿ニ載セ置クヘシ

但他府縣ヘ寄留スル者ハ本籍ノ戸長ヘ届出テ寄留地ノ戸長ヘハ届出ルニ及ハス

第六十一條 男子二十歳ニ至レハ兵役ニ就クヘキヲ以テ毎年一月ヨリ十二月迄ニ二十歳ト爲ル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ左式ノ如ク其戸主

(本人戸主ナレ) ヨリ戸長へ届出へシ戸長之ヲ取纏メ同月二十五日迄ニ郡區長
ハ即チ自身
へ差出シ郡區長點檢ノ上箇條ヲ區別シ十月十日迄ニ各自ノ届書ト共ニ使府縣
廳へ差出スヘシ使府縣廳之ヲ調査シ徵兵諸名簿ニ載セ十二月二十五日迄ニ所
管鎮臺へ出スヘシ

徵兵各自届式

職業

徵兵役及ヒ一時徵集總檢ニ當ルヘキ
者其ノ者ハ其旨ヲ此ニ記載ス例ヘハ

嗣子(承祖孫)(相續人)

年月日生 何 某

右私何男(弟孫甥又ハ附籍等)ニテ本年何月二十歳ト相成候間此段及御
届候也

郡(區)町(村)住族及ヒ職業

年月日

戸主 何 某 印

年月日生

郡(區)町(村)戸長

何 某 殿

第六十二條 他ノ使府縣へ寄留スル者ハ其本籍府縣ニ於テ徵集ニ應スルト其寄
留地ニ於テスルトハ總テ本人ノ情願ニ任ス

第六十三條 寄留地ニ於テ徵集ニ就ント欲スル者ハ寄留地ニ於ケル身元引受人
ノ証書ヲ添へ九月一日迄ニ其旨ヲ本管廳并ニ寄留管廳ニ届出ヘシ其本管廳ニ
於テハ其地ノ戸主ナル者ヲ取札ノ上寄留管廳へ其旨ヲ通牒シ徵集名簿ノ末ニ
附シ其事由ヲ詳記スヘシ

第六十四條 本年徵兵ニ當ル者免役料金貳百七拾圓平時免役ニ當ル者金百三拾
五圓ヲ上納スルキハ國民軍ノ外兵役ヲ免ス

第六十五條 前條ノ免役ヲ願出ル者ハ其親族ノ者ヨリ徵兵使巡行徵兵檢査以前
願書ヲ戸長へ差出シ戸長之ニ與書證印ヲ爲シ郡區長へ差出シ郡區長點檢ノ上
使府縣廳へ差出シ使府縣廳ヨリ之ヲ徵兵署ニ差出スヘシ

第六十六條 徵兵ニ關スル事件ニ付キ年齡及ヒ父母兄弟ノ有無ヲ偽リ或ハ身体ヲ毀傷シ或ハ疾病ヲ作爲シ其他詐欺ヲ以テ徵集ヲ規避スル者并ニ郡區長或ハ戶長ノ之ニ証印ヲ爲セシ者ハ共ニ常律ヲ以テ之ヲ處分ス

第六十七條 前條ニ掲ル所ノ徵集ヲ規避スル者及ヒ第六十一條ニ示ス所ノ定規ノ届出ヲ怠ル者ハ翌年徵集ノ期ニ於テ檢査ヲ遂ケ第五十六條但書ニ示シタル入營延期翌年廻ノ者ニ先タチ入營セシムヘシ

第八章 徵員

第六十八條 凡ソ六管鎮臺下ニ於テ各種ノ兵員ヲ分チ其徵員ヲ定ムル左ノ如シ

- 第一軍管東京鎮臺常備
- 步兵 三聯隊
- 騎兵 一大隊
- 砲兵 二大隊
- 工兵 一大隊

輜重兵 一小隊
 海岸砲兵 三隊
 人員七千〇二十人
 内一ヶ年徵員 二千二百四十人

管下府縣

- 東京 神奈川 埼玉 静岡 山梨 群馬
- 千葉 茨城 椽木 長野 新潟

第二軍管仙臺鎮臺常備

- 步兵 二聯隊
- 砲兵 一大隊
- 工兵 一中隊
- 輜重兵 一小隊

人員四千二百六十八

内一ヶ年徴員 一千四百二十人

管下諸縣

宮城 福島 青森 岩手 秋田 山形

第三軍管名古屋鎮臺常備

步兵 二聯隊

砲兵 一大隊

工兵 一中隊

輜重兵 一小隊

人員四千二百六十人

内一ヶ年徴員 一千四百二十人

管下諸縣

愛知 岐阜 石川 静岡ノ内 滋賀ノ内 長野ノ内
遠江一國 越前一郡 信濃四郡

第四軍管大坂鎮臺常備

步兵 三聯隊

砲兵 二大隊

工兵 一大隊

輜重兵 一小隊

海岸砲兵 二隊

人員六千七百人

内一ヶ年徴員 二千二百三十三人三分一

管下府縣

大坂 兵庫 堺 和歌山 京都 滋賀

三重 岡山 島根ノ内 因幡 伯耆 隱岐 一圓

第五軍管廣島鎮臺常備

步兵 二聯隊

砲兵 一大隊

明治十二年

〇二百六十七

工兵 一中隊
 輜重兵 一小隊
 海岸砲兵 一隊

人員四千三百四十八
 内一ヶ年徵員 一千四百四十六人三分二

管下諸縣

廣島 島根 山口 高知 愛媛

岡山ノ内
 備中一國

第六軍管熊本鎮臺常備

歩兵 二聯隊
 砲兵 二大隊
 工兵 一大隊
 輜重兵 一小隊
 海岸砲兵 二隊

人員四千七百八十八

内一ヶ年徵員 一千五百九十三人三分一

管下諸縣

熊本 鹿兒島 大分 福岡 長崎 沖繩

第七軍管

海岸砲兵

一隊 現今第二軍管ノ
 管轄ニ屬スル者

人員八十人

内一ヶ年徵員 二十六人三分二

管下

开拓使ノ内函館支廳管下一圓

人員 三萬千四百四十人

總計

内一ヶ年徵員 壹萬〇四百八十人

輜重輸卒看病卒及ヒ職工ハ未タ其徵
 員ヲ定メス故ニ之ヲ茲ニ算入セズ

第六十九條 補充兵員ハ諸兵總テ常備徵員ニ同シ

第七十條 各種ノ兵卒其身幹ノ尺度ヲ定ムルヲ左ノ如シ

砲兵

海岸砲兵 五尺四寸以上

騎兵

工兵 五尺三寸以上

輜重兵

歩兵 五尺以上

輜重輸卒

看病卒 尺度ヲ定メス

職工

第七十一條 常備補充一ケ年徵員ハ其大要ヲ示ス者ニシテ軍隊編制ノ都合ニ由

リ若干ノ人員ヲ増減スルハ時宜ニ由ルヘシ

○第四十七号 十二月十三日

十年二月第十九号布告中大審院職制第一項へ但書追加ス

○第四十八号 十二月二十日

明治十三年郵便規則改訂別冊ノ通ニ候條此旨布告候事 (別冊略ス)

明治十三年五月届
同 七月出版

定價七拾五錢

岡山縣藏版

製本所

岡山區東山中下
弘文社

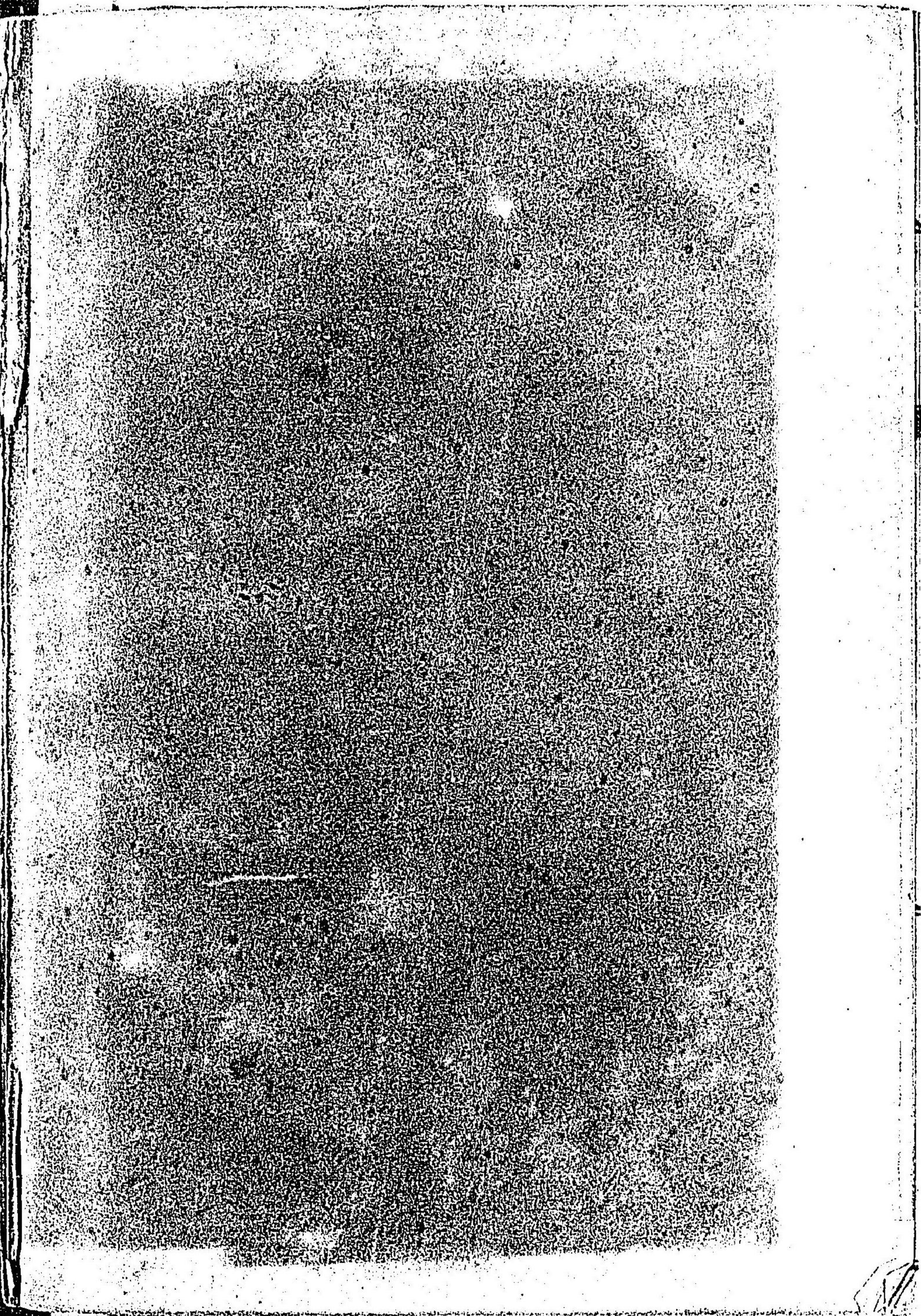
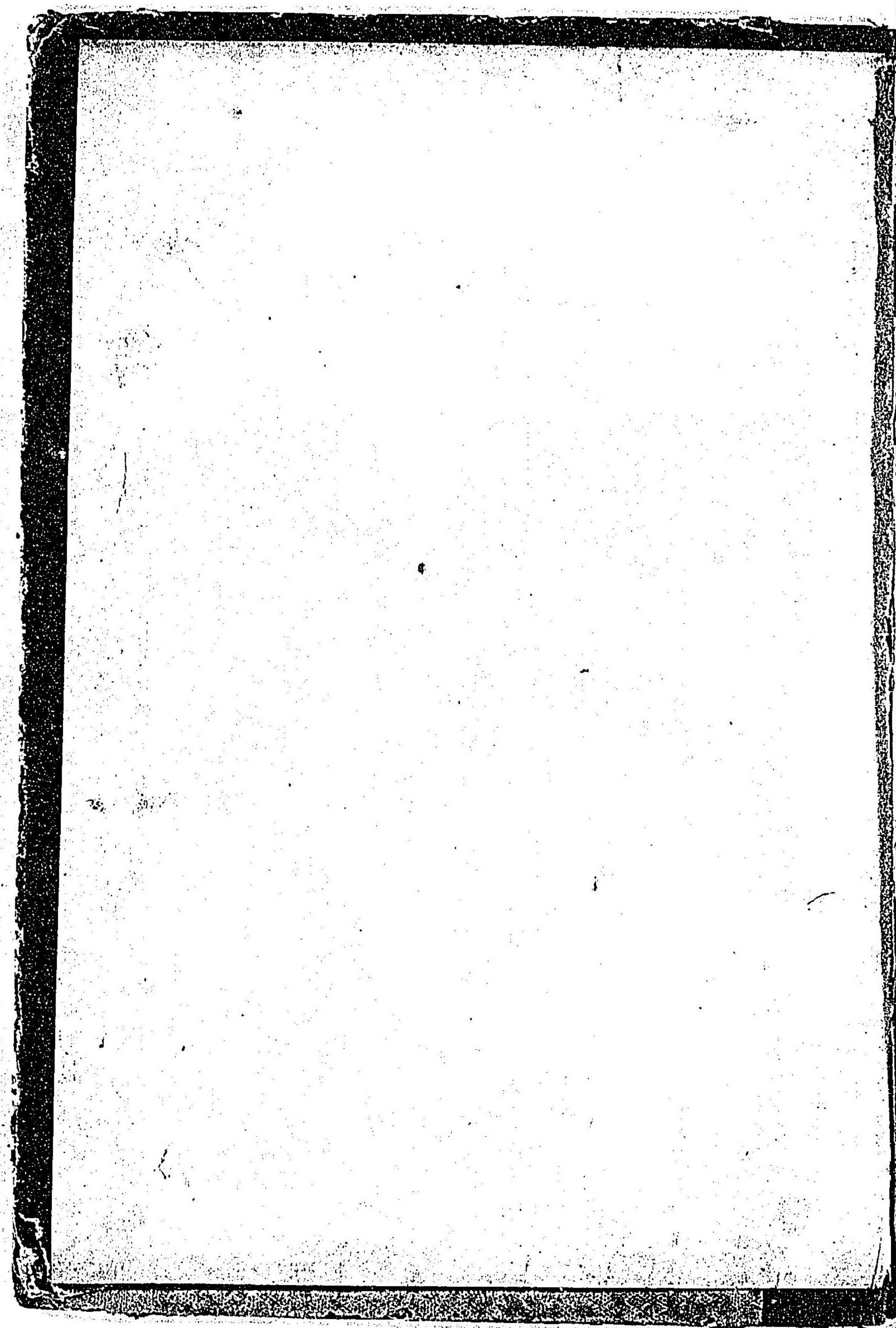
正誤

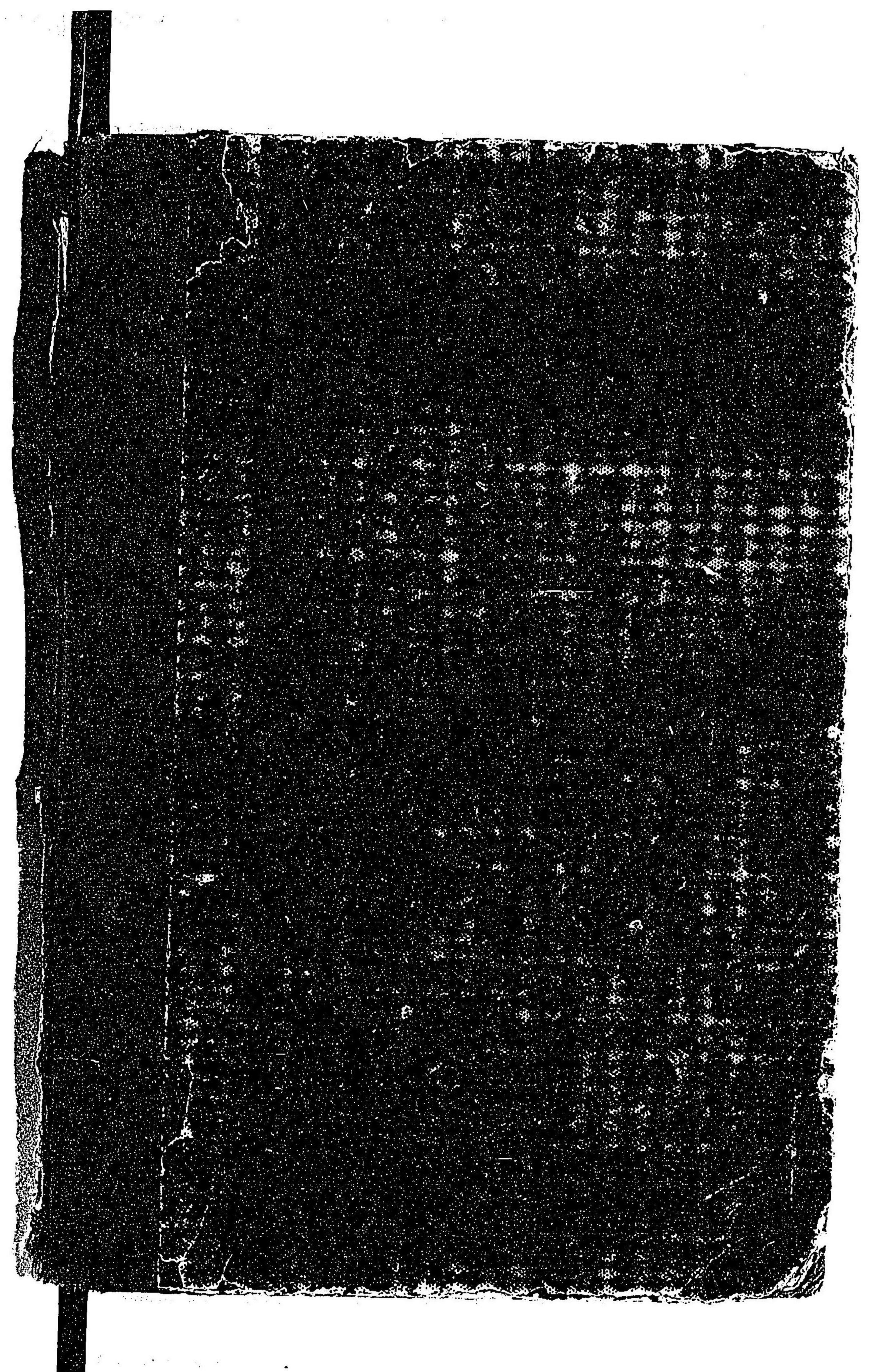
- 七年九 全 卅三 丁ノ表九行目(六月七日)ハ(六月廿日)ノ誤
- 全 卅三 丁ノ表乾字小判一個五圓拾五錢(五六)ハ(六五)ノ誤
- 全 卅五 丁ノ表享保ノ下段後ノ内譯壹圓〇四錢ノ下ニ〇ヲ脱ス
- 全 卅五 丁ノ裏下段安政金ノ肩ニ(正字)云ノ四字ヲ脱ス
- 全 卅十 丁ノ裏末行(圓)ハ(圓)ノ誤
- 全 卅十 丁ノ裏末行(圓)ハ(圓)ノ誤
- 全 卅十 丁ノ表八行目割註(有使)ハ(省使)ノ誤
- 全 卅十 丁ノ裏積荷目錄表紙ノ上端ニ割印ヲ脱ス
- 八年六十一 丁ノ裏貳行目并七行目七年ノ上ニ(明治)ノ貳字ヲ脱ス
- 全 卅十 丁ノ表九行目(嚴)ハ(嚴)ノ誤
- 全 卅十 丁ノ裏裁判事務心得中各條ニ一打ヲ脱ス
- 全 卅十 丁ノ裏初行ノ割註(承)ノ下ニ(ル)ヲ脱ス
- 全 卅十 丁ノ裏版權讓受屆書式中示談ノ上ノ下(ハ)ハ衍字
- 全 卅廿七 丁ノ裏欄外内務ノ下ニ(省)ヲ脱ス
- 全 卅廿二 丁ノ裏二號書式雛形ノ下三行目(買取主)ハ(質取主)ノ誤
- 全 卅三 丁ノ表三號書式雛形中朱字(流失)ハ(流亡)ノ誤
- 全 卅四 丁ノ裏回漕貨物取扱條例中各條ニ一打ヲ脱ス
- 九年百五十五 丁ノ表九行目(斗)ハ(量)ノ誤
- 全 百五十七 丁ノ裏雛形中印影ノ圓形ハ方形ノ誤
- 全 百六十一 丁ノ裏十二行目(頒置)ハ(領置)ノ誤
- 全 百六十四 丁ノ表末行中(及)ノ下ニ(ヒ)ヲ脱ス
- 全 百六十八 丁ノ表九行目(薨)ハ(葬)ノ誤
- 十年百八十七 丁ノ裏九行目以上ノ下(チ)ハ(ノ)ノ誤
- 全 百八十八 丁ノ表民有荒地處分規則中各條ニ一打ヲ脱ス
- 全 二百四 丁ノ表十二行目(上色)ハ(上包)ノ誤
- 全 二百八 丁ノ次延納表中二罫目二段并八罫目三段朱字(留年延)ハ(皆年延)ノ誤



(管半紙)ノ題

- 全 二百八丁、六紙條券中二種目二種并八種目三列未字(管半紙)ノ
- 全 二百四丁、六紙條券中(土色)ノ(土色)ノ題
- 全 百八十八丁、六紙條券中長紙四種中各一紙ヲ題ス
- 十 百八十八丁、六紙條券中(土色)ノ(土色)ノ(土色)ノ題
- 全 百六十八丁、六紙條券中(土色)ノ(土色)ノ題
- 全 百六十四丁、六紙條券中(土色)ノ(土色)ノ(土色)ノ題
- 全 百六十一丁、六紙條券中(土色)ノ(土色)ノ(土色)ノ題
- 全 百五十九丁、六紙條券中(土色)ノ(土色)ノ(土色)ノ題
- 全 百五十七丁、六紙條券中(土色)ノ(土色)ノ(土色)ノ題
- 全 百四十四丁、六紙條券中(土色)ノ(土色)ノ(土色)ノ題
- 全 百三十三丁、六紙條券中(土色)ノ(土色)ノ(土色)ノ題
- 全 百三十一丁、六紙條券中(土色)ノ(土色)ノ(土色)ノ題





東京圖書館	
函二三	門
架七	部 20
號	類

禁電子式複写

031044-000-3

CZ-4-05

太政官布告書 明治7年1-12月

岡山県

M13

BBC-0601



